

兵庫県揖保郡太子町  
法隆寺領播磨国鷓荘遺跡群調査報告 I

松尾寺跡遺跡  
斑鳩寺遺跡



平成15年3月31日

太子町教育委員会

# 松尾寺跡遺跡

—国庫補助事業町内遺跡発掘調査—



平成15年3月31日

太子町教育委員会





## 序 文

松尾寺跡は、太子町北部の松尾集落の背後、標高 30～40m の山腹に位置し、全国的にも有名な『播磨国鶴荘』とも重要な関係にある寺院の一つです。最盛期には、堂塔伽藍の整った寺院であったことが諸記録に見られます。

今回、国庫補助を得て、平成 10 年度から 3 ヶ年にわたり確認調査を実施してきました。その結果、遺物・遺構の一部が確認され、中世松尾寺を窺い知る資料を得ることが出来ました。

断片ではありますが、今回の調査成果が少しなりとも、学術研究の資料として活用していただければ幸いです。

最後になりましたが、調査にあたり、ご協力並びにご指導いただいた松尾自治会をはじめ願成寺、諸先生、兵庫県教育委員会の方々には厚く感謝の意を表したいと思います。

2003 年 3 月 31 日

太子町教育委員会

教育長 圓尾 哲一



## 例 言

1. 本書は、兵庫県揖保郡太子町松尾字西辻ノ下に所在する松尾寺跡遺跡の調査報告書である。
2. 調査は、平成10年度から3ヵ年にわたり、国庫補助金を得て、町内遺跡確認調査として実施した。
3. 調査は、太子町教育委員が主体となり、同社会教育課三村修次・海野浩幸が担当した。
4. 調査にあたっては、松尾自治会・松尾山願成寺・揖龍広域シルバー人材センター太子支部の協力を得た。
5. 本書に使用した座標は国土座標第V系を、標高はT.Pを基準とした。
6. 本書の示す方位は、座標北である。
7. 基準点測量は、喜多村測量株式会社に委託した。
8. 本書の執筆・編集は、三村・海野が行った。
9. 遺物観察表の色調は、日本色研事業株式会社発行の「新版・標準土色帳 1992年版」による。
10. 本報告書に係る図面・遺物・写真は、太子町教育委員会が保管している。



太子町位置図

# 本文目次

序文  
例言

I. 松尾寺	1
II. 調査に至る経過	3
III. 調査の概要	5
1. 平坦面の概要	5
2. 第1次調査(平成10年度)	6
3. 第2次調査(平成11年度)	16
4. 第3次調査(平成12年度)	22
IV. まとめ	26

# 挿図目次

第1図 法隆寺領播磨国鶴荘絵図[松尾寺部分](至徳図)	1	第13図 トレンチ1石列実測図	16
第2図 周辺遺跡分布図	2	第14図 トレンチ1実測図	17
第3図 調査区配置図	4	第15図 トレンチ2・3土層実測図	18
第4図 平坦面配置図	5	第16図 トレンチ4実測図	19
第5図 トレンチ1土層図	6	第17図 井戸平面図	19
第6図 トレンチ2実測図	7	第18図 第2次調査出土遺物	20
第7図 トレンチ3実測図	8	第19図 平坦面I石垣平面図	22
第8図 トレンチ4・5土層実測図	9	第20図 南面西側石垣実測図	23
第9図 第1次調査出土遺物(1)	10	第21図 南面東側石垣実測図	24
第10図 第1次調査出土遺物(2)	11	第22図 東面石垣実測図	25
第11図 第1次調査出土遺物(3)	12	第23図 平坦面V南面石列実測図	26
第12図 第1次調査出土遺物(4)	13	第24図 第3次調査出土遺物	27

# 表目次

表1 第1次調査出土遺物観察表(1)	14	表3 第2次調査出土遺物観察表	21
表2 第1次調査出土遺物観察表(2)	15	表4 第3次調査出土遺物観察表	27



## 図版目次

- 図版 1 上 調査地遠望 (南から)  
中 平坦面 I 調査前 (南西から)  
下 平坦面 IV 道路状高まり (南から)
- 第 1 次調査
- 図版 2 上 トレンチ 1 (南西から)  
中 トレンチ 2 東西部分 (西から)  
下 トレンチ 2 南北部分 (北から)
- 図版 3 上 トレンチ 2 南端集石 (南から)  
中 トレンチ 3 (南から)  
下 トレンチ 3 石列 (南から)
- 図版 4 上 トレンチ 3 石列 (棧瓦) (南西から)  
中 トレンチ 4 (北東から)  
下 トレンチ 5 (西から)
- 図版 5 出土遺物 (1)
- 図版 6 出土遺物 (2)
- 図版 7 出土遺物 (3)
- 図版 8 出土遺物 (4)
- 第 2 次調査
- 図版 9 上 トレンチ 1 (南から)  
中 トレンチ 1 石列 (北から)  
下 トレンチ 2 (西から)
- 図版 10 上 トレンチ 3 (東から)  
中 トレンチ 4 (東から)  
下 トレンチ 4 礎石状石材 (南から)
- 図版 11 出土遺物
- 第 3 次調査
- 図版 12 上 平坦面 I 南面  
通路状スロープ (南から)  
中 平坦面 I 南面  
石垣・調査前 (南から)  
下 平坦面 I 南面  
西側石垣 (南から)
- 図版 13 上 平坦面 I 南面  
東側石垣 (南から)  
中 平坦面 I 南面  
通路状部分西側袖石 (南西から)  
下 平坦面 I 南面  
通路状部分東側袖石 (南東から)
- 図版 14 上 平坦面 I 東面石垣 (南東から)  
中 平坦面 V 南面石列 (東から)  
下 平坦面 V 南面石列 (南東から)
- 図版 15 上 平坦面 V 西側井戸 (南西から)  
中 出土遺物  
下 出土遺物

## I. 松尾寺

松尾寺は、『峰相記』には「松尾観音は澄光上人の建立」とあり、法隆寺の所蔵する『播磨国嶋莊絵図』で嘉暦4(1329)年の年記を持つものには「松尾寺」の文字が記載されており、至徳3(1386)年写しの裏書を持つものには、3棟の建物が描かれている。

平安時代後期の保延4(1138)年には、播磨国衛の在庁官人・桑原宿禰貞助が松尾寺において、播磨国内6郡にまたがる13カ寺以上から僧侶を動員して、大般若経600巻1日屯写を行っており、規模の整った寺院であったようである。しかし、室町時代には荒廃していたものを、明応6(1497)年京都妙心寺の景川禅師が「松尾山願成寺」として復興し、このとき禅宗として妙心寺の末寺となった。その後、戦国時代の兵乱等により、江戸時代には廃絶状態にあったが、元禄頃松尾村の西祐という人物が再興し、昭和3(1928)年に現在地に移転した。西祐については、元禄6(1693)年の斑鳩寺梵鐘銘及び、『斑鳩寺記録』にその名がみえる。また、宝暦12(1762)年に書かれた地誌『播磨鑑』には、「七堂伽藍の地にて僧房あまた有之、中古焼亡す、今山上に本堂鎮守社の跡、其外寺院の石壁等残れり、山下田畑の中にも僧舎鐘楼有りし所と云有」と記されており、現在も本堂大谷、本堂小谷、大門、宮の谷等の小字名が残る。



第1図 法隆寺領播磨国嶋莊絵図 [松尾寺部分] (至徳図) (法隆寺所蔵)





第2図 周辺遺跡分布図

- |            |            |                   |
|------------|------------|-------------------|
| 1. 松尾寺跡    | 2. 松尾遺跡    | 3. 松尾古墳           |
| 4. 坊主山遺跡   | 5. 坊主山古墳群  | 6. 筑紫大道跡          |
| 7. 平方遺跡    | 8. 平方宮ノ本遺跡 | 9. 平方老丁田遺跡        |
| 10. 平方高田遺跡 | 11. 城山遺跡   | 12. 松田山古墳         |
| 13. 湯ノ谷墳丘墓 | 14. 笹山墳墓群  | 15. 平方勝示石(県指定文化財) |
| 16. 桜ヶ坪勝示石 | 17. 笹山遺跡   | 18. 笹山経塚・伝円勝寺跡    |

## II. 調査に至る経過

松尾寺は、法隆寺領播磨国鶴荘との関係が深く、また、重要な位置を占める寺院であるが、室町時代以降の荒廃や近世「松尾山願成寺」の創建等により、その詳細ははっきりしない。今回、播磨国鶴荘荘園遺跡保存整備に伴い、中世松尾寺についての正確な所在地及び、規模等の詳細を把握することにより、その検討資料を得ることを目的に、国庫補助金を得て3カ年にわたり確認調査を実施した。

調査対象地は、松尾集落の鎮守である八幡神社南方で、標高35～40m間の約2000㎡の範囲で、現状においても5カ所の平坦面と江戸期の石垣が確認される。

### 【調査体制】

#### [平成10年度]

調査期間	平成11年1月25日～平成11年3月30日	
調査面積	86㎡	
事務局	教育長	圓尾哲一
	教育次長	山口静哉
	社会教育課長	丸尾明弘
	社会教育副課長	春井良雄
	社会教育係長	三輪元昭
発掘調査担当	社会教育課主査	三村修次
	社会教育課主事	海野浩幸

#### [平成11年度]

調査期間	平成11年12月1日～平成12年3月30日	
調査面積	113㎡	
事務局	教育長	圓尾哲一
	教育次長	山口静哉
	社会教育課長	丸尾明弘
	社会教育副課長	春井良雄
	社会教育係長	三輪元昭
発掘調査担当	社会教育課主査	三村修次
	社会教育課主事	海野浩幸



[平成 12 年度]

調査期間 平成 12 年 3 月 5 日～平成 12 年 3 月 31 日

調査面積 121 m<sup>2</sup>

事務局	教育長	圓尾哲一
	教育次長	山口静哉
	社会教育課長	森川秀敏
	社会教育副課長	春井良雄
	社会教育係長	栗岡佳代

発掘調査担当	社会教育課主査	三村修次
	社会教育課主事	海野浩幸

[発掘作業従事者]

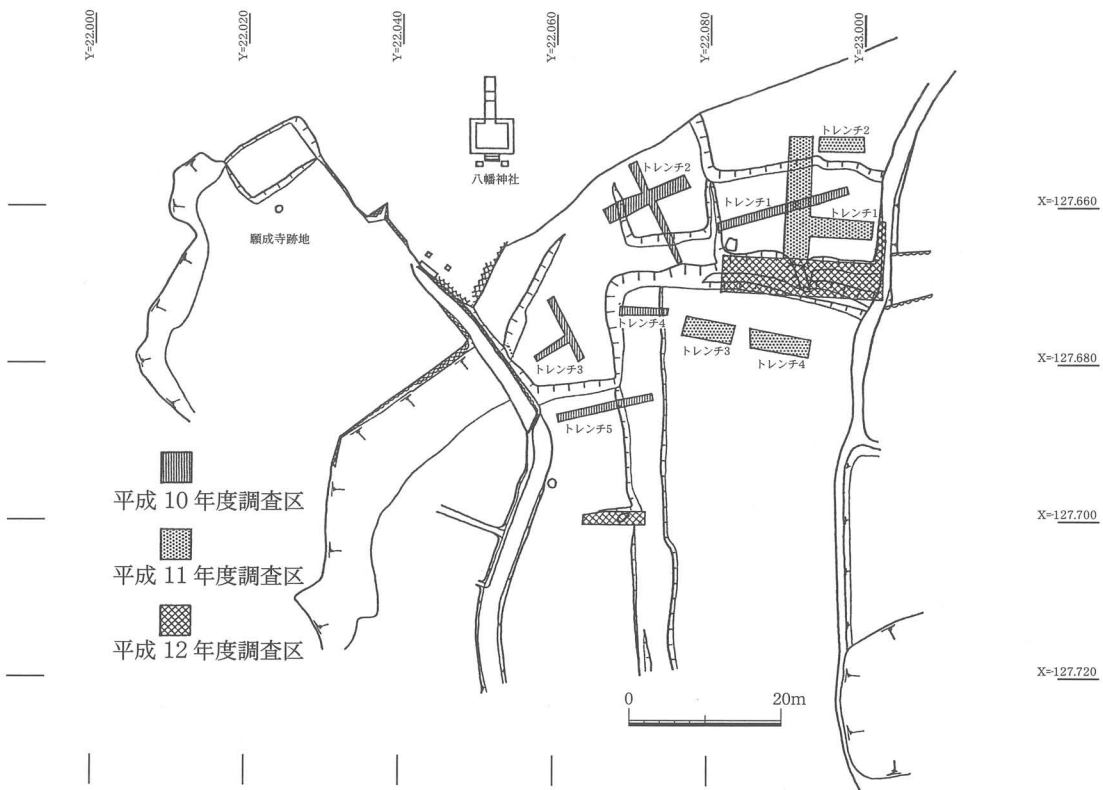
小野八郎・小寺睦夫・小林利明・小松和歳・寺見輝男・前田利夫・三枝順二・森川恒晴・山口武一

[整理事業従事者]

井川ミキ子・井上道子・岩村千穂・改発法子・加藤美穂・小林雅美・中村豊子・藤井昭子・大津早苗

[調査協力者・協力機関]

岩本次郎・梶木良夫・小林基伸・田中幸夫・松尾自治会・松尾山願成寺・喜多村測量株式会社  
 揖龍広域シルバー人材センター・兵庫県教育委員会



第3図 調査区配置図

### Ⅲ. 調査の概要

調査は、各平坦面に平成 10 年度の第 1 次調査ではトレンチ 5 ヲ所、平成 11 年度の第 2 次調査ではトレンチ 4 箇所、平成 12 年度の第 3 次調査ではトレンチ 2 ヲ所をそれぞれ設定して実施した。調査地の基本土層は、表土(約 20cm)、灰褐色土(20~30cm)、角礫混じり灰褐色土(30~50cm)、黒色土(10~30cm)で岩細礫片混じり暗黄褐色土・地山及び岩盤となっている。

#### 1 【平坦面の概要】

##### 平坦面 I

平坦面 I は、標高 38.6~39.5m 前後で平坦面中最高所に位置し、東西約 20m、南北は東側で約 30m、西側で約 18m を測る。北側の奥まった部分は約 70cm 程度高く段になっている。南側法面下には幅 1m の犬走り状の平坦面を持つ。また、南面と東面には石垣が用いられており、南面の中央部には、上場幅約 1m の通路状のスロープが見られる。

##### 平坦面 II

平坦面 II は、平坦面 I の西で標高 39m 前後に位置し、東西約 10m、南北は東側で、約 14m、西側で約 10m を測る。南側に約 50cm 下がって幅約 3m の平坦面を持つ。

##### 平坦面 III

平坦面 III は、平坦面 II の南西で標高 38m 前後に位置し、東西約 36m、南北約 20m を測る。

##### 平坦面 IV

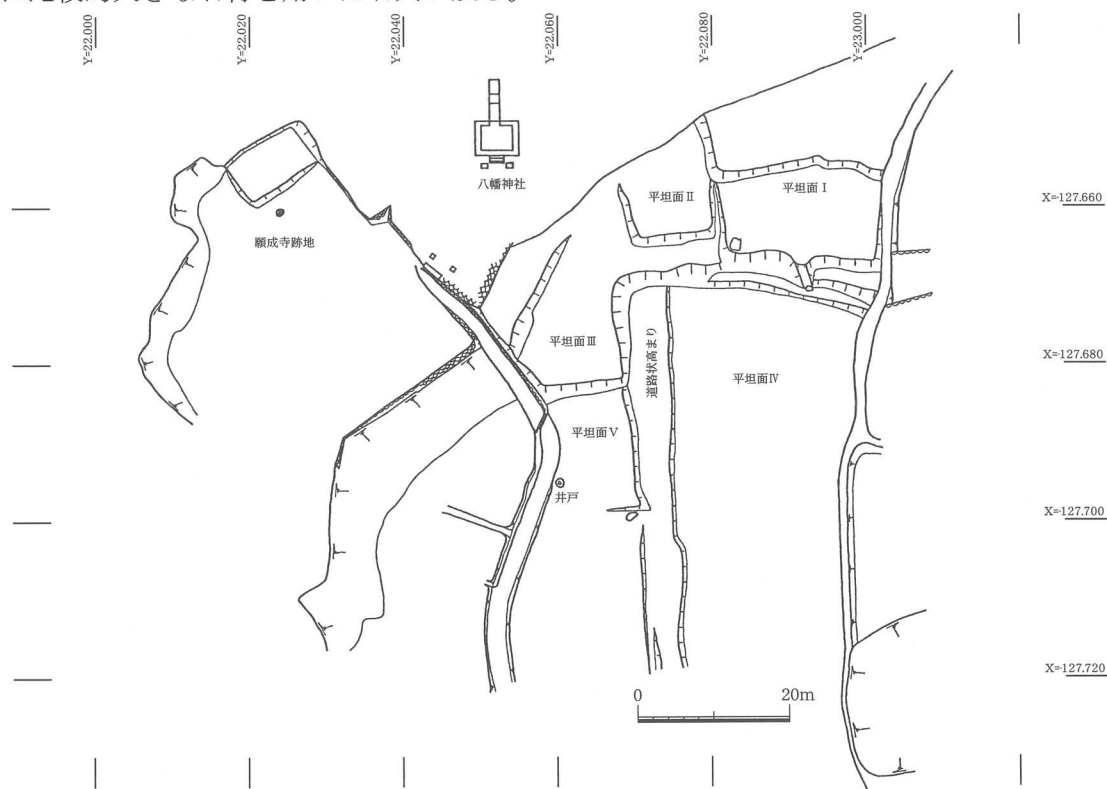
平坦面 IV は、平坦面 I・II の南で標高約 34.5~35.5m の間に位置し、東西約 28m を測る。

南方へ緩やかに傾斜しながら延びている。西端に幅約 5m、高さ約 30cm の道路状の高まりがある。

##### 平坦面 V

平坦面 V は、平坦面 III の南で標高約 36m 前後に位置し、東西約 10m、南北約 15m を測る。

南面に比較的大きな石材を用いた石列が残る。



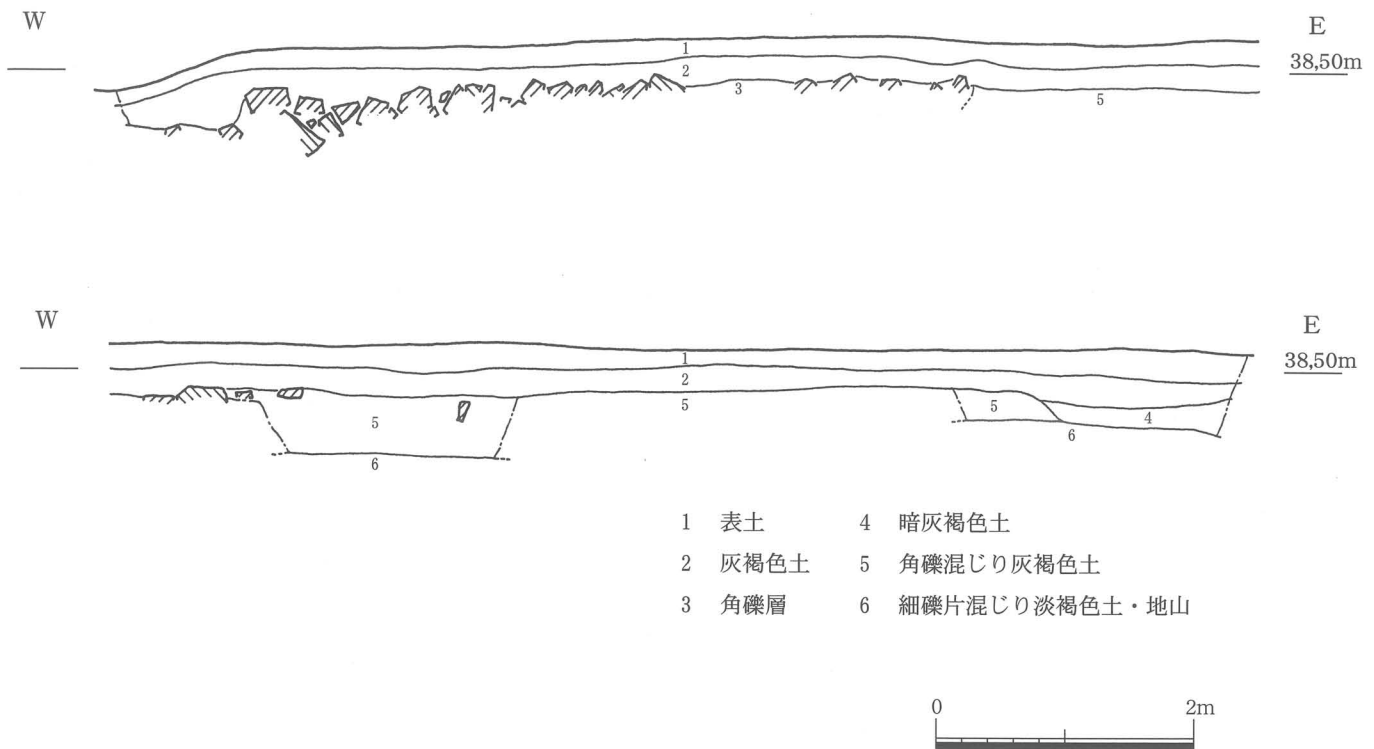
第 4 図 平坦面配置図

## 2 【第1次調査(平成10年度)】

第1次調査は、平坦面Ⅰ～Ⅴにトレンチ各1本を設定して実施した。

### トレンチ1

平坦面Ⅰに設定したトレンチである。トレンチ西半部で相互に比較的隙間が見られる角礫の堆積した落ち込みが検出されただけで、遺構は検出されなかった。遺物は、土師器・瓦質土器・染付け磁器・瓦・瓦転用面子・砥石が出土した。



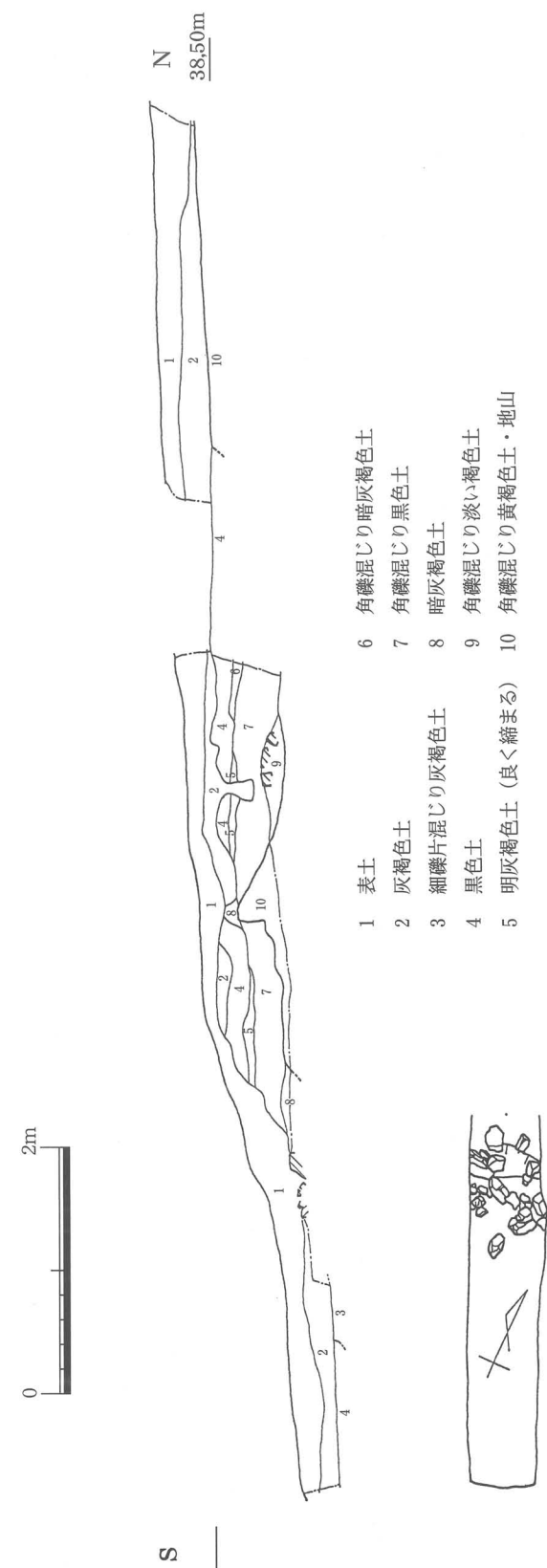
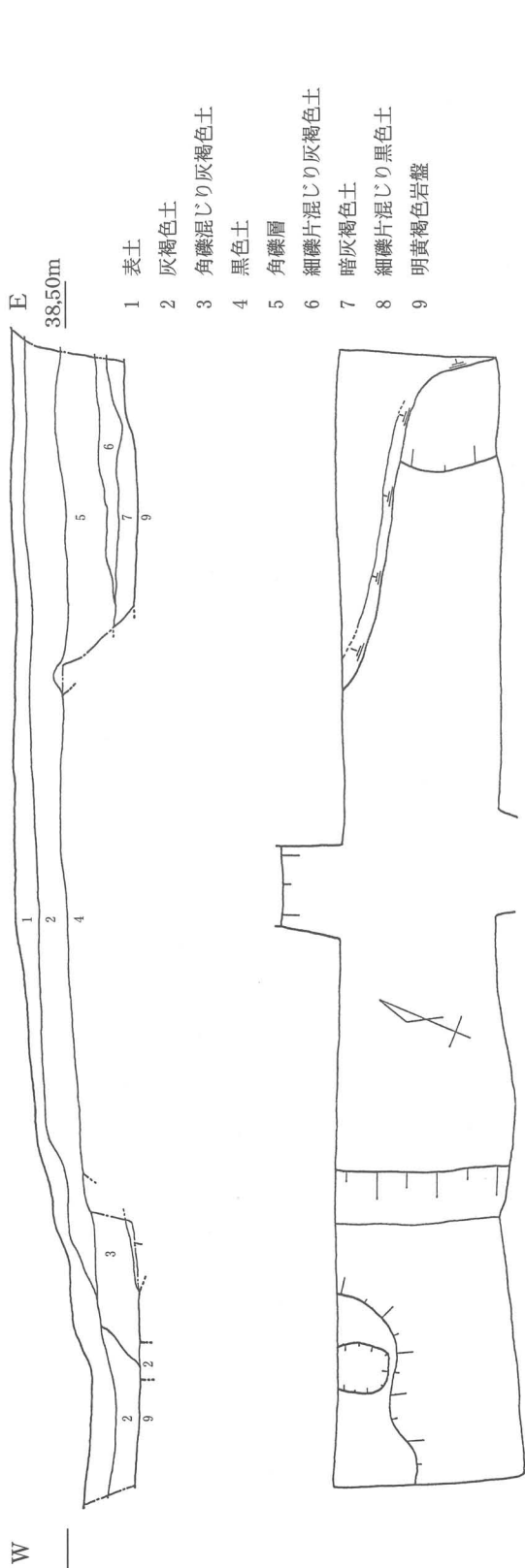
第5図 トレンチ1土層図

### トレンチ2

平坦面Ⅱに十字型に設定したトレンチである。このトレンチでは、北の山側の地山を削り、南側を黒色土により整地を行って、平坦面を造成していることが確認された。遺構は、南北トレンチ南端の平坦面裾部で土止めと考えられる集石が検出された。また、東西トレンチ西端の地山面で土坑1基が検出された。黒色土面では遺構は検出されなかった。

集石は10～30cm前後の角礫で、設置状況に規則性は見られない。土坑は、直径約50cmを測り、薄手の平瓦が出土し、江戸時代末のものと考えられる。

遺物は、土師器・瓦質土器・備前焼・瓦が出土した。なお、瓦には梵字軒平瓦片1点が含まれる。



南端集石部分

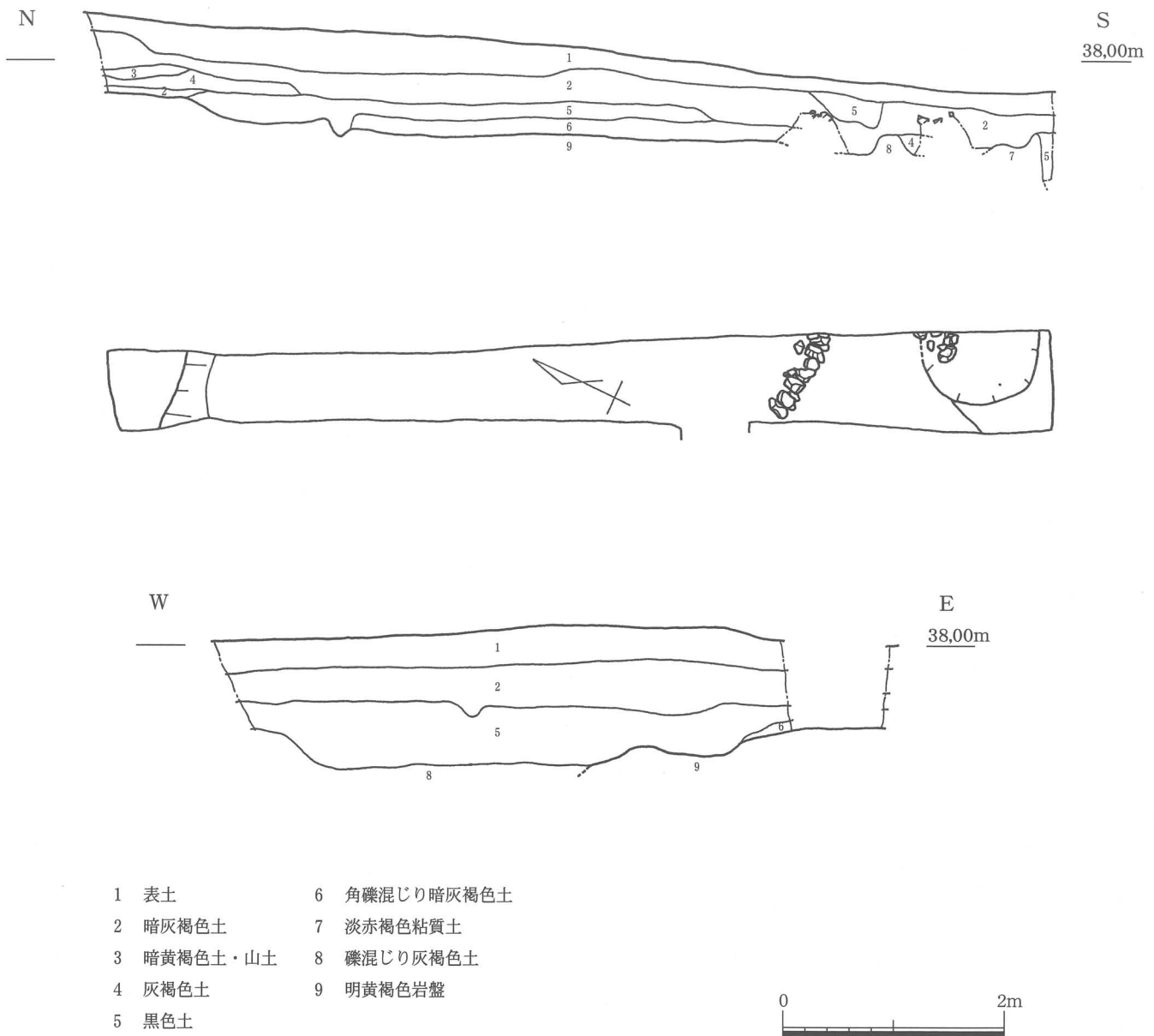
第6図 トレンチ2実測図



### トレンチ 3

平坦面ⅢにT字型に設定したトレンチである。このトレンチでも黒色土を用いて平坦面を造成していることが確認された。遺構は、南北トレンチ南端部の黒色土面において、平坦面南辺に平行な石列と、淡赤褐色粘質土を充填した土坑状遺構 1 基を検出した。

石列は、20cm 前後の石材が用いられている。時期は、棧瓦を交えており、江戸時代末のものと考えられる。土坑状遺構は、直径約 1m を測り、出土遺物が無く時期は特定できないが、石列と同時期のものと考えられる。遺物は、染付け磁器・陶器・備前焼・瓦・鉄釘が出土した。



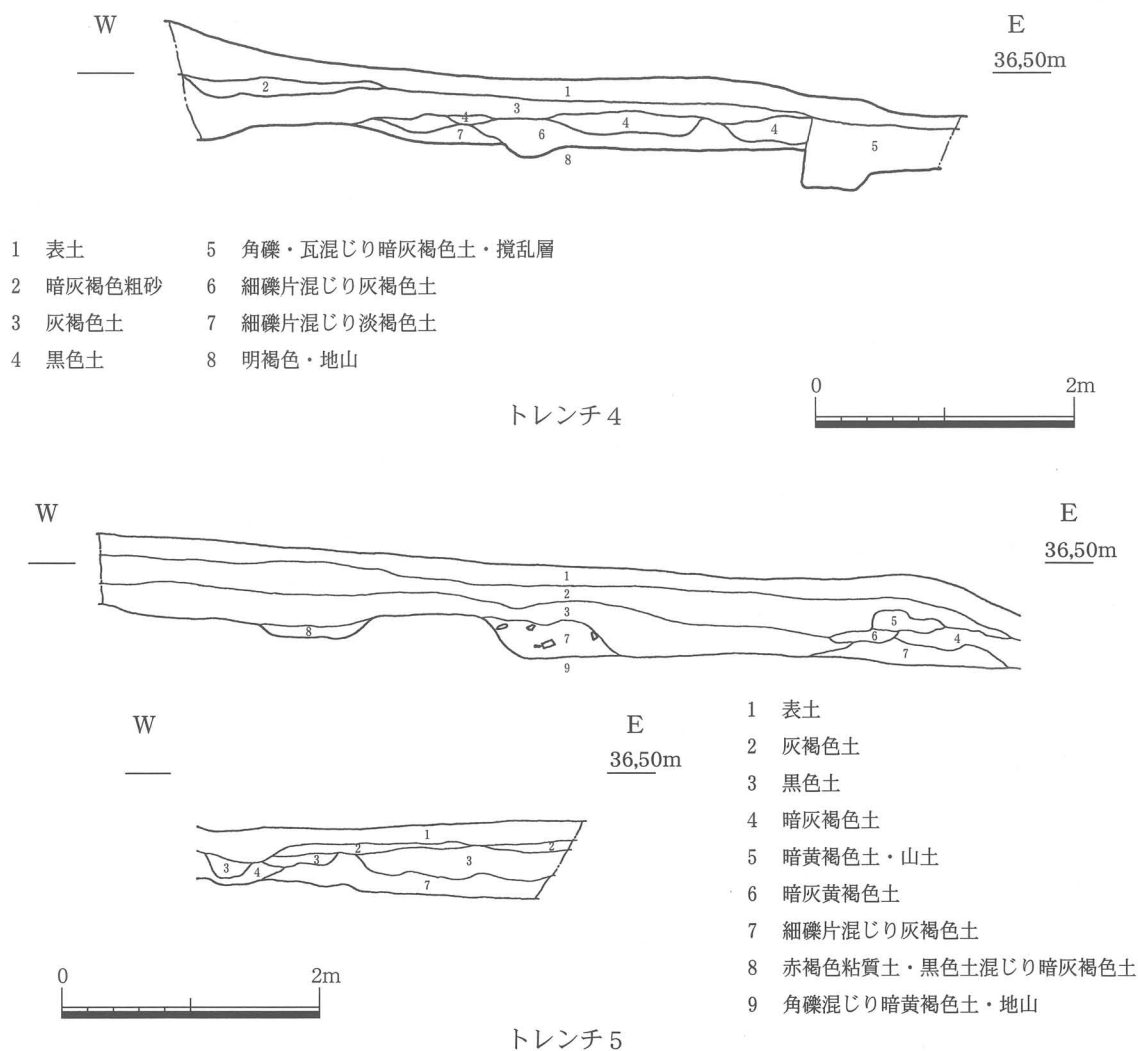
第7図 トレンチ 3 実測図

### トレンチ 4

平坦面Ⅳ北西端で、道路状高まりに直行する形で設定したトレンチである。道路状高まりは、黒色土と細礫混じりの灰褐色土を用いて形成されていることが確認された。遺物は、瓦数点が出土しただけである。

### トレンチ 5

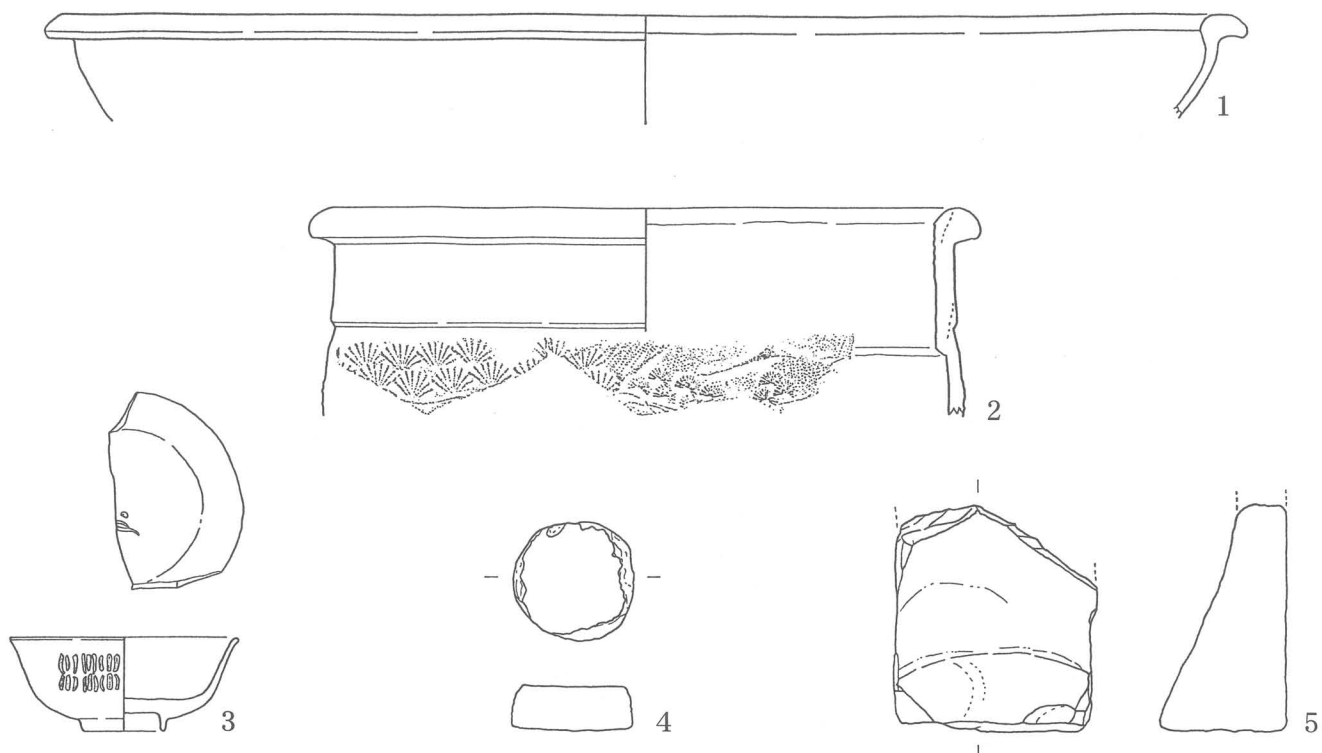
平坦面Ⅴ北端で、一部平坦面Ⅳにかけて設定したトレンチである。黒色土が確認されたが、遺構は検出されなかった。平坦面Ⅳの道路状部分は、トレンチ 4 の土層と同じ様相である。遺物は、土師器・須恵器・染付け磁器・陶器・瓦・鉄釘が出土した。



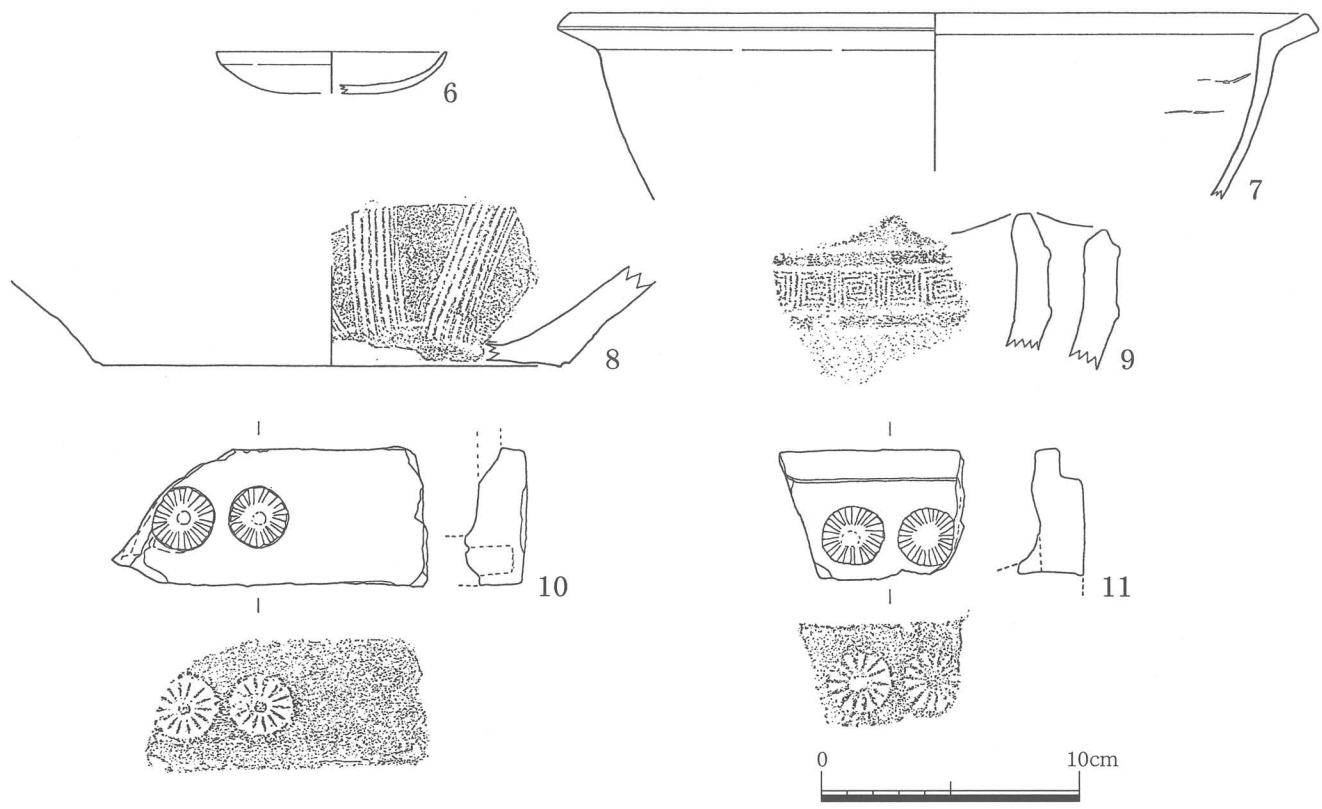
第 8 図 トレンチ 4・5 土層実測図

### 出土遺物

遺物のほとんどは表土及び黒色土上面からのもので、遺構に伴うものは無く、近世陶磁器・瓦で占められる。ただ、瓦にはわずかではあるが布目瓦が含まれ、また、破片ではあるが、梵字軒平瓦 1 点が出土している。

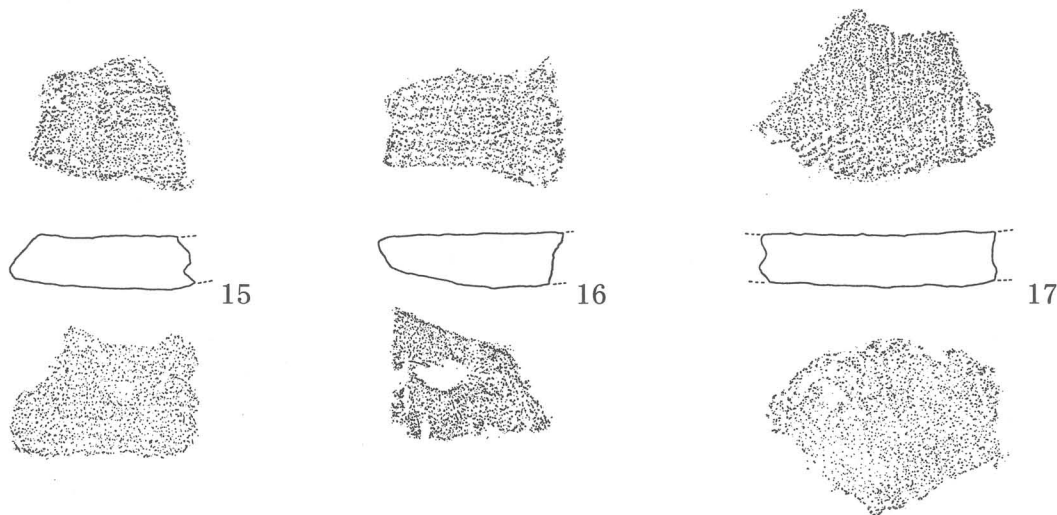
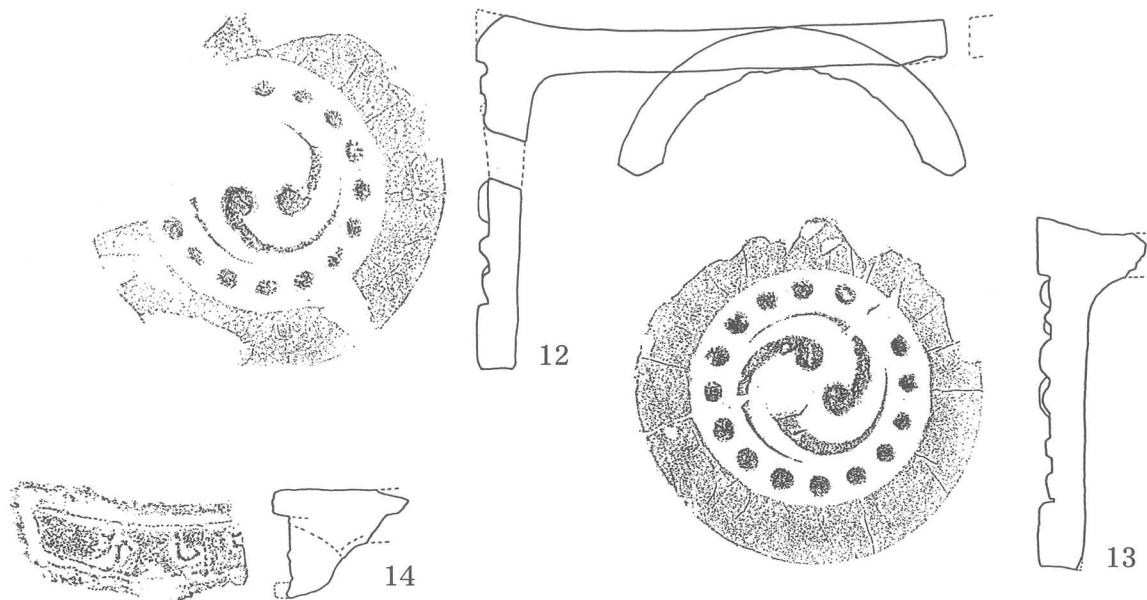


トレンチ1

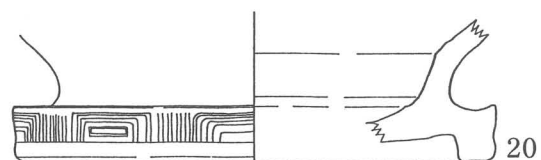
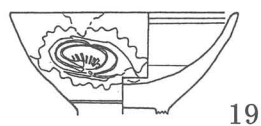
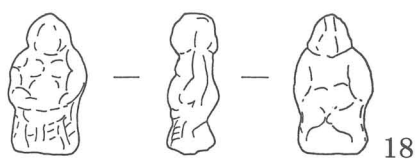


トレンチ2

第9図 第1次調査出土遺物(1)



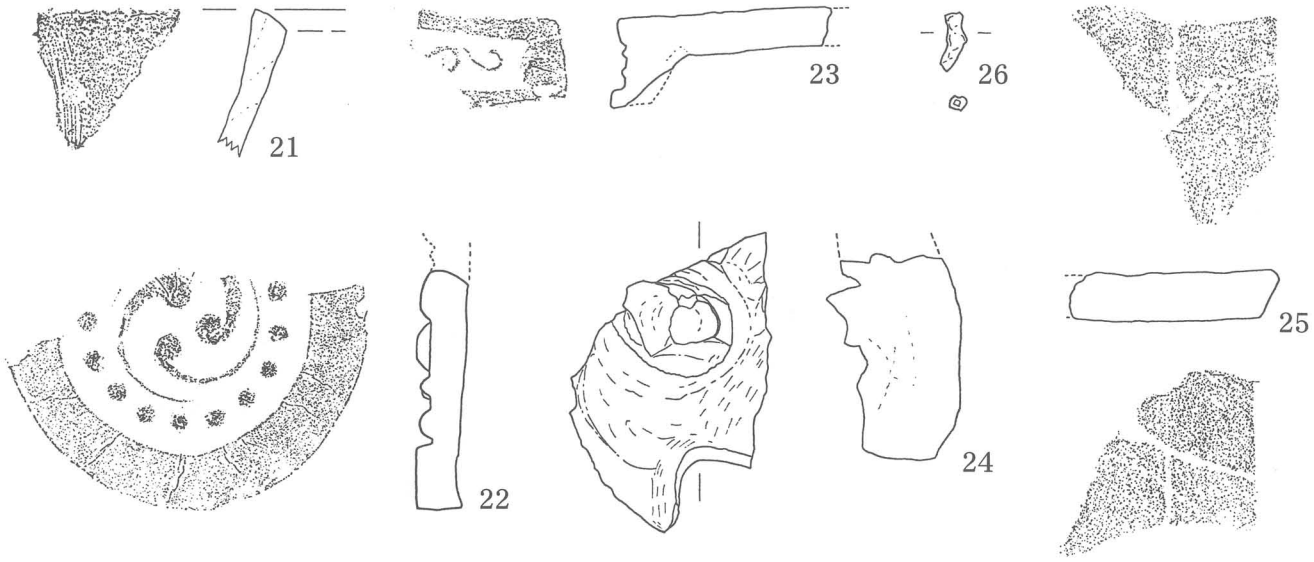
トレンチ 2



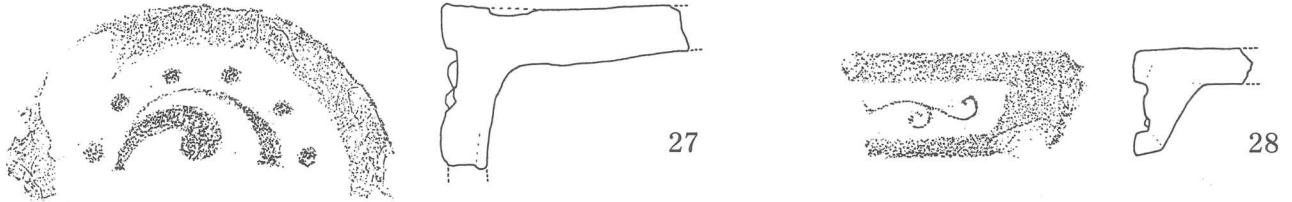
トレンチ 3



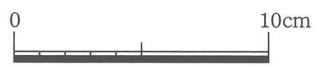
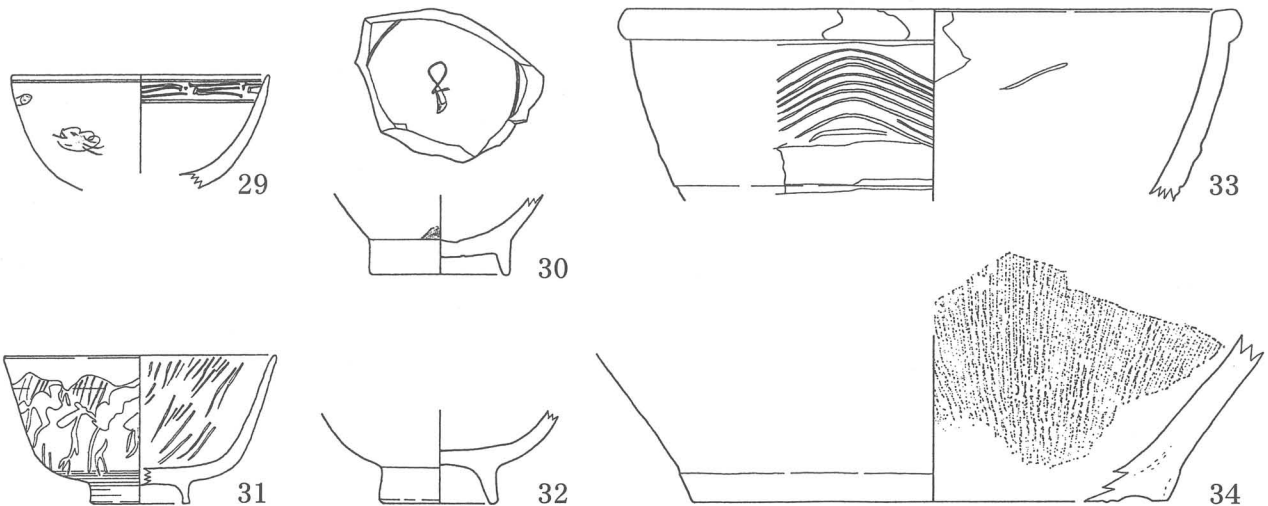
第10図 第1次調査出土遺物 (2)



トレンチ3

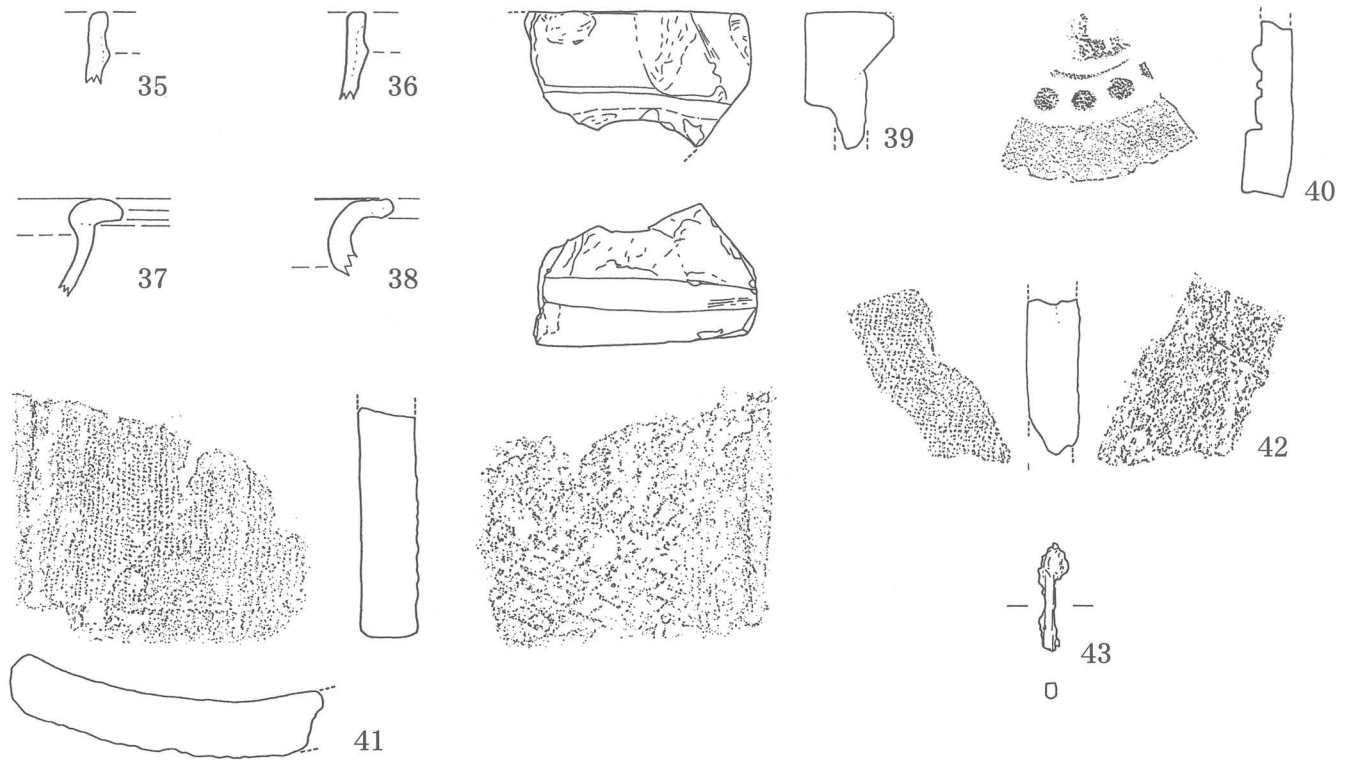


トレンチ4

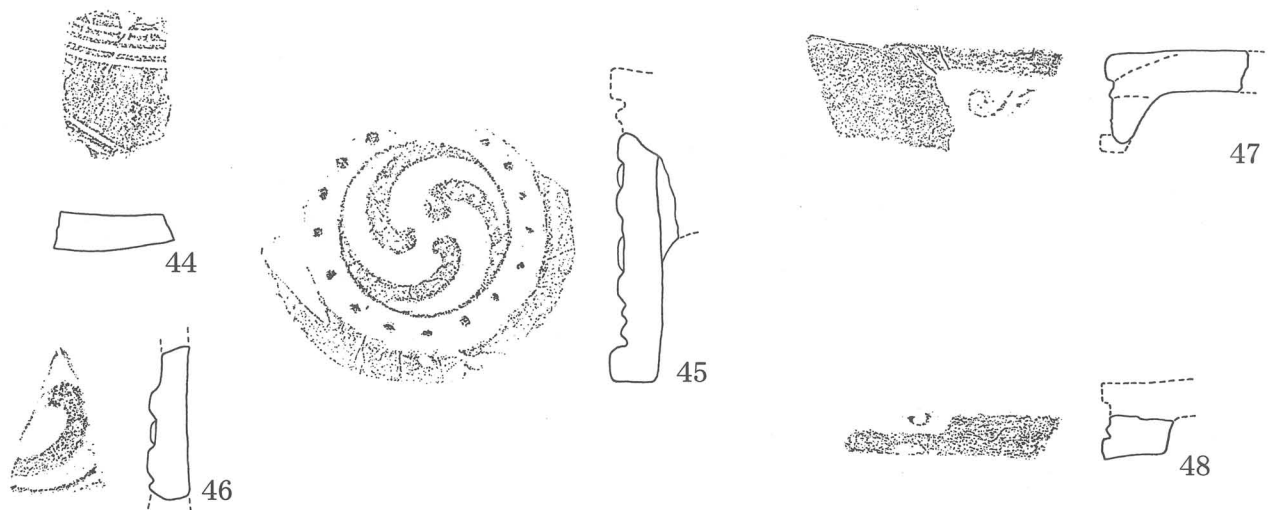


トレンチ5

第11図 第1次調査出土遺物(3)



トレンチ 5



平坦面 V

第12図 第1次調査出土遺物 (4)



表1 第1次調査出土遺物観察表(1)

番号	出土場所	種別/器種	法量(cm)	調整	色調	実測番号	備考
1	トレンチ1 表土	瓦質土器・土埴	口径44	ナデ	外 褐灰 10YR4/1～ 灰黄褐 10YR4/2 内 明黄褐 10YR6/6	9803-1-2	
2	トレンチ1 表土	瓦質土器・火鉢	口径24	ナデ 胴部松模様押し	暗灰 N3	9803-1-3	
3	トレンチ1 表土	染付け磁器・碗	口径9 器高3.6		白地、藍染付け	9803-1-1	
4	トレンチ1 表土	瓦転用・面子	径4.5×4.7 厚さ1.7		黒褐 3/1～黄灰 2.5YR4/4	9803-1-5	
5	トレンチ1 表土	石製品・砥石				9803-1-4	砂岩製
6	トレンチ2 黒色土上面	土師器・皿	口径16.8 器高1.6	ナデ	赤褐 10YR5/4	9803-4-2	
7	トレンチ2 黒色土上面	瓦質土器・土埴	口径28.6	ナデ	暗灰 N3	9803-4-1	外面煤付着
8	トレンチ2 黒色土上面	土師器・皿	口径17.8	ナデ 櫛描き卸目	外 鈍い黄褐 10YR5/3 内 黒褐 10YR3/2	9803-3-3	
9	トレンチ2 表土	瓦質土器・火鉢		外面スタンプ紋	外 黄灰 2.5Y4/1 内 黒褐 2.5Y3/1	9803-2-1	
10	トレンチ2 東端落込み	瓦質・火鉢		外面菊花紋	黄灰 2.5YR5/1	9803-3-1	
11	トレンチ2 東端落込み	瓦質・火鉢		外面菊花紋	黄灰 2.5YR5/1	9803-3-2	
12	トレンチ2 表土	軒丸瓦			灰 N5	9803-2-3	
13	トレンチ2 表土	軒丸瓦			暗灰 N3	9803-2-2	
14	トレンチ2 表土	軒丸瓦			にぶい黄橙 10YR7/4	9803-2-11	梵字紋
15	トレンチ2 表土	布目瓦	厚さ2.1	凹面 布目 凸面 面取り	灰 7.5YR5/1	9803-2-10	
16	トレンチ2 表土	布目瓦	厚さ2.0	凹面 布目	灰褐 7.5YR6/2	9803-2-6	
17	トレンチ2 表土	布目瓦	厚さ2.0	凹面 布目 凸面 離れ砂	灰褐 7.5YR6/2	9803-2-7	
18	トレンチ3 表土	磁器・人形	像高5.5		白磁	9803-5-5	力士像
19	トレンチ3 表土	染付磁器・碗	口径9	施釉	白地に藍染付	9803-5-4	
20	トレンチ3 表土	施釉陶器・鉢	底径18	施釉 高台端部露胎	外 緑 内 赤褐	9803-5-3	
21	トレンチ3 黒色土	備前焼・すり鉢		櫛画き卸目	灰褐 5YR4/2	9803-7-1	備前IV期
22	トレンチ3 表土	軒丸瓦			黒 N2	9803-5-1	
23	トレンチ3 表土	軒平瓦			灰黄褐 10YR6/2 ～灰黄 2.5Y7/2	9803-5-2	
24	トレンチ3 暗灰褐色土	鬼瓦			灰 N4～暗灰 N3	9803-6-1	
25	トレンチ3 黒色土	布目瓦	厚さ1.9	凹面 細かい布目、面取り 凸面 離れ砂	褐灰 10YR4/1	9803-7-2	

表2 第1次調査出土遺物観察表(2)

番号	出土場所	種別/器種	法量(cm)	調整	色調	実測番号	備考
26	トレンチ3 表土	鉄釘		錆化著しい		9803-5-6	
27	トレンチ4 東端攪乱	軒丸瓦			灰黄 2.5Y6/2～黄灰 2.5Y4/1	9803-8-2	
28	トレンチ4 東端攪乱	軒平瓦			黄灰 2.5Y4/1	9803-8-1	
29	トレンチ5 表土	染付磁器・碗	口径 10	施釉	白地に藍染付	9803-9-6	
30	トレンチ5 表土	染付磁器・碗	底径 5.2	施釉	白地に藍染付	9803-9-4	
31	トレンチ5 表土	施釉陶器・碗	口径 10.4 器高 5.8 底径 3.8	施釉		9803-9-8	唐津系
32	トレンチ5 表土	施釉陶器・碗	底径 4.4	施釉 全体に細かい貫入	にぶい黄橙 10YR6/3		
33	トレンチ5 表土	施釉陶器・鉢	口径 24	施釉		9803-9-7	唐津系
34	トレンチ5 表土	備前焼・播鉢	底径 16.3	櫛描き卸目	赤褐 10R5/3	9803-9-11	
35	トレンチ5 黒色土	土師器・埴		ヨコナデ	鈍い橙 7.5YR7/4	9803-11-1	
36	トレンチ5 表土	土師器・埴		ヨコナデ	橙灰 5YR7/6	9803-9-3	外面煤付着
37	トレンチ5 表土	瓦質土器・埴		ヨコナデ	灰褐 7.5YR5/2 ～褐灰 7.5YR4/1	9803-9-1	
38	トレンチ5 表土	瓦質土器・甕		ヨコナデ	灰 5Y5/1～灰白 5YR8/1	9803-9-2	
39	トレンチ5 黒色土	瓦質	最大厚さ 3.4		にぶい黄橙 10YR7/3	9803-11-2	
40	トレンチ5 表土	軒丸瓦			暗灰 N3	9803-9-13	
41	トレンチ5 灰褐色土	布目瓦	厚さ 2.1	凹面 布目、面取り 凸面 格子叩き目	灰白 2.5Y7/1 ～黄灰 2.5Y6/1	9803-12.1	
42	トレンチ5 黒色土	布目瓦	厚さ 2.0	凹面 布目 凸面 叩き後ナデ	灰 5Y5/1	9803-10-3	
43	トレンチ5 灰褐色土	鉄釘	径 4×5			9803-13-1	断面四角
44	平坦面V 表採	備前焼・面子	径 4.2×5.5		褐灰 7.5YR4/1～4/2	9803-15-9	播鉢転用
45	平坦面V 表採	軒丸瓦			灰黄 2.5Y6/2	9803-15-1	
46	平坦面V 表採	軒丸瓦			褐灰 10YR4/1	9803-15-2	
47	平坦面V 表採	軒平瓦			灰 5Y5/1 ～オリーブ黒 5Y3/1	9803-15-3	
48	平坦面V 表採	軒平瓦			灰黄 2.5Y6/2	9803-15-4	

### 3 【第2次調査(平成11年度)】

第2次調査は、平坦面IとIVに合わせてトレンチ4ヵ所を設定するとともに、平坦面I南法面の石列の一部精査を実施した。また、平坦面I東辺と平坦面V南辺で新たな石列が、平坦面Vの西側で、八幡神社へ通じる道との間で井戸1基が確認された。

#### トレンチ1

平坦面I中央部にT字型に設定したトレンチである。遺構は、灰褐色土下層の角礫混じり灰褐色土面で、トレンチ南半の東西トレンチとの接点部分で、長さ50cm前後の扁平な角礫を用いた石列2mを検出した。

平坦面南側法面の石列は、人頭大から幅約1m大の石材が用いられており、中央部には上場幅約1mの通路状のスロープが見られ、その左右には袖石が遺存している。

遺物は、染付け磁器・陶器・瓦・鉄製品が出土した。



第13図 トレンチ1石列実測図



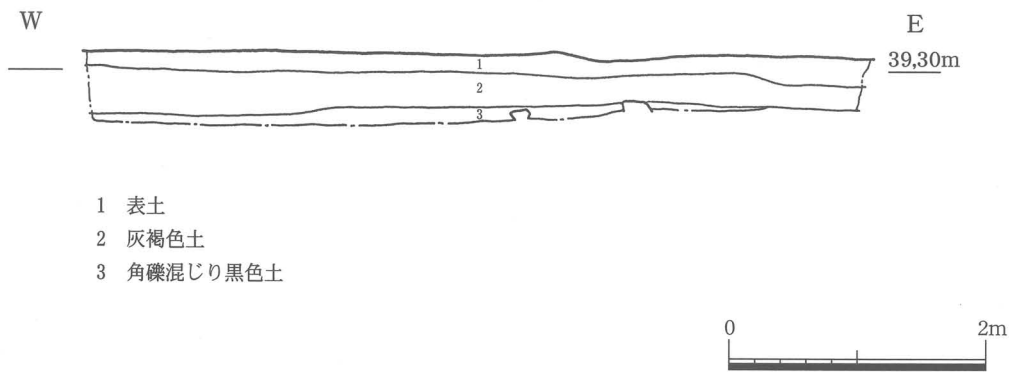
第14図 トレンチ1実測図

### トレンチ 2

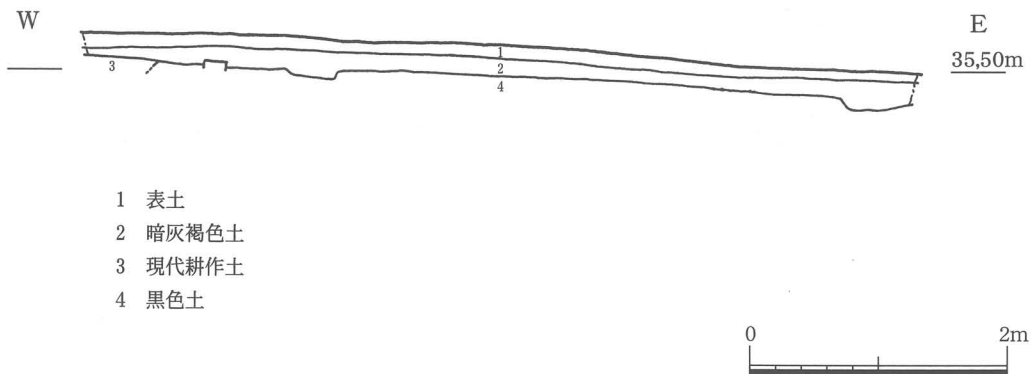
平坦面 I の北側の一段高くなったところに設定したトレンチである。角礫混じりの黒色土による整地層が確認されたが、遺構は検出されなかった。遺物は、土師器・染付け磁器・陶器・瓦・鉄釘が出土した。

### トレンチ 3

平坦面 IV の北端に設定したトレンチである。黒色土による整地面が確認されたが、現代の畑作に伴う掘り込み以外に遺構は検出されなかった。遺物は、染付け磁器・瓦が数点出土しただけである。



トレンチ 2

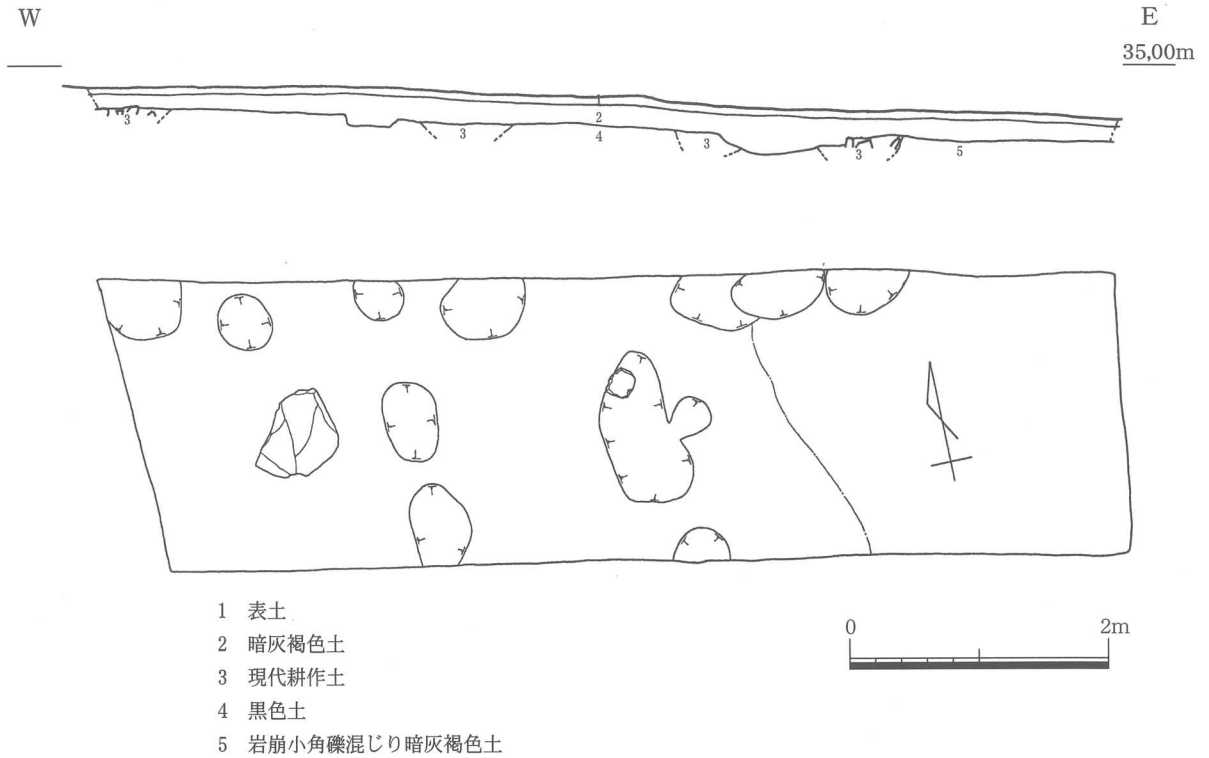


トレンチ 3

第15図 トレンチ 2・3 土層実測図

#### トレンチ 4

平坦面IVでトレンチ 3 の東に設定したトレンチである。状況は、西のトレンチ 3 と同様であるが、西端近くで 70×60cm の上面のレベルが黒色土上面に一致する礎石状の石 1 基を検出した。しかし、他に同様な石材が確認されなかったため、建物に伴うものかは不明である。遺物は、染付け磁器・備前焼・瓦が出土した。



第16図 トレンチ 4 実測図

#### 井戸 1

平坦面Vの西側で確認され、検出時、表面は竹の根櫛で覆われていた。

表面の確認のみに止めたため、底部の構造、掘り方等は不明であるが、内径約 1m を測り、半分ほどが幅 1m 以上の板石で蓋をされていた。検出面からの深さ約 3.6m を測る。上面から約 2m の高さまで水を湛えている。

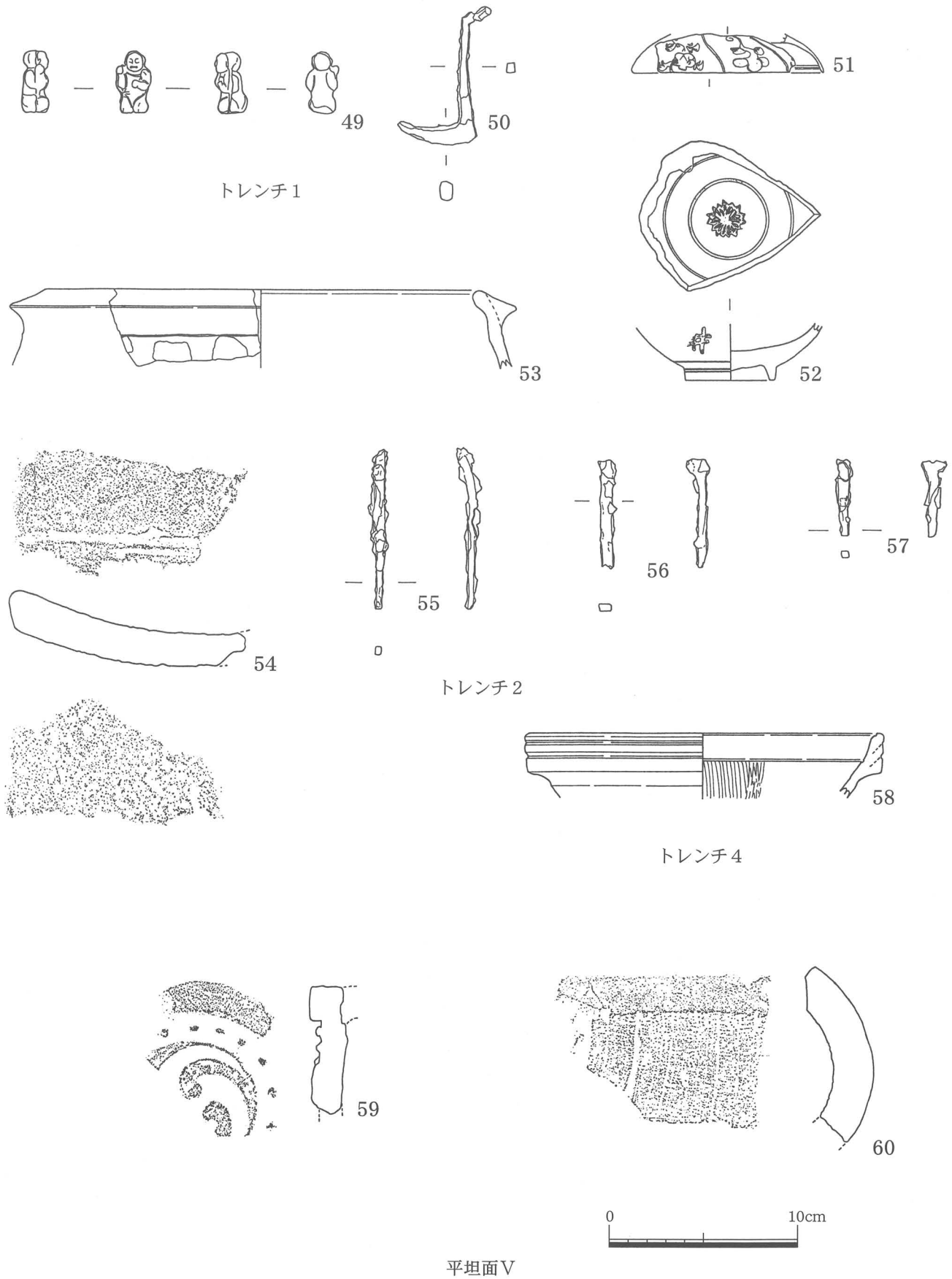
#### 出土遺物

遺物の状況は第 1 次調査と同様で、近世陶磁器で占められる。瓦類の出土は、比較的少なかった。



第17図 井戸平面図





第18図 第2次調査出土遺物

表3 第2次調査出土遺物観察表

番号	出土場所	種別/器種	法量(cm)	調整	色調	実測番号	備考
49	トレンチ1 表土	磁器・人形	全長 3.2	施釉、型押	明緑灰 10GY8/1	9911-1-2	童子像
50	トレンチ1 表土	鉄製品・鉤	全長 7.4			9911-1-1	
51	トレンチ2 表土	染付磁器・藍	口径 10.0	施釉	白地に藍染付	9911-3-2	
52	トレンチ2 表土	染付磁器・碗	底径 4.8	施釉	白地に藍染付	9911-3-3	
53	トレンチ2 表土	施釉陶器・甕	口径 23.0	施釉	内面 オリーブ灰 10Y5/2	9911-3-1	
54	トレンチ2 黒色土上面	平瓦	厚さ 1.9	凹面 ナデ 凸面 磨耗	鈍い黄橙 10YR7/3	9911-2-4	
55	トレンチ2 黒色土上面	鉄製品・釘	径 3×5			9911-2-1	断面四角形
56	トレンチ2 黒色土上面	鉄製品・釘	径 4×7			9911-2-2-1	断面長方形
57	トレンチ2 黒色土上面	鉄製品・釘	径 4×4			9911-2-2-2	断面四角形
58	トレンチ4 表土	備前焼・すり鉢	口径 16.6	櫛描き卸目	暗褐色 2.5YR3/2	9911-7-1	
59	平坦面V 南石列表土	軒丸瓦			外 黒褐 7.5YR3/1 内 灰黄褐 10YR5/2	9911-6-1	
60	平坦面V 南石列表土	丸瓦		凸面 ヘラ磨き 凹面 布目・コビキ痕	鈍い黄橙 10YR6/3 ～黒褐 10YR3/1	9911-6-2	

#### 4 【第3次調査(平成12年度)】

第3次調査は、第2次調査に引き続いて平坦面Ⅰ南面の石列と、前回新たに確認された平坦面Ⅰ東面及び、平坦面Ⅴ南面の石列の精査を実施するとともに、各平坦面並びに周辺部の地形測量を実施した。

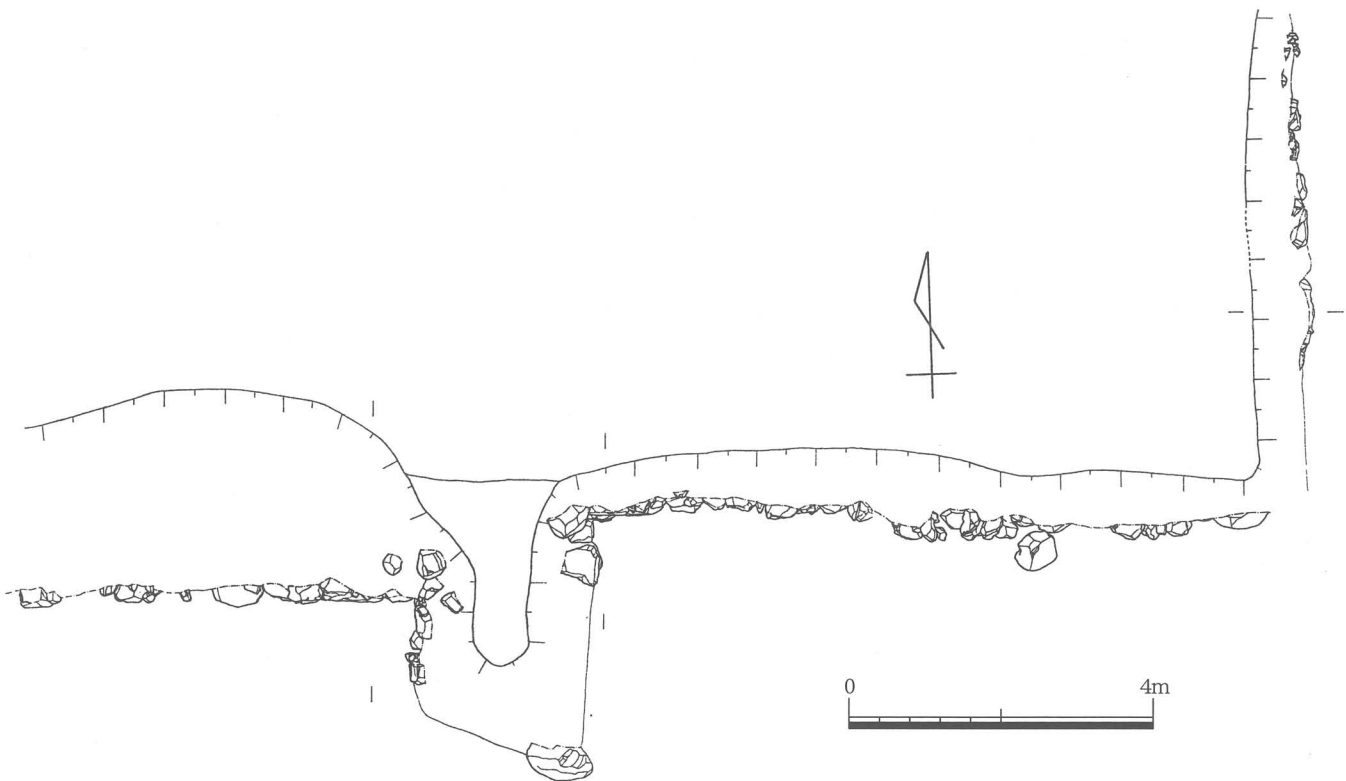
##### 平坦面Ⅰ南面石列

石列は平坦面の南面で、平坦面中央部の通路状のスロープを挟んで東側で約9m、西側で約5mが検出された。現在は法面の中ほどまでしか残っていないが、本来は平坦面上部までの石垣であったと考えられる。また、平面では通路状部分を境に東西で約1mの食違いが認められる。使用されている石材は、幅20cm～1m、高さ20～50cmと不揃いである。

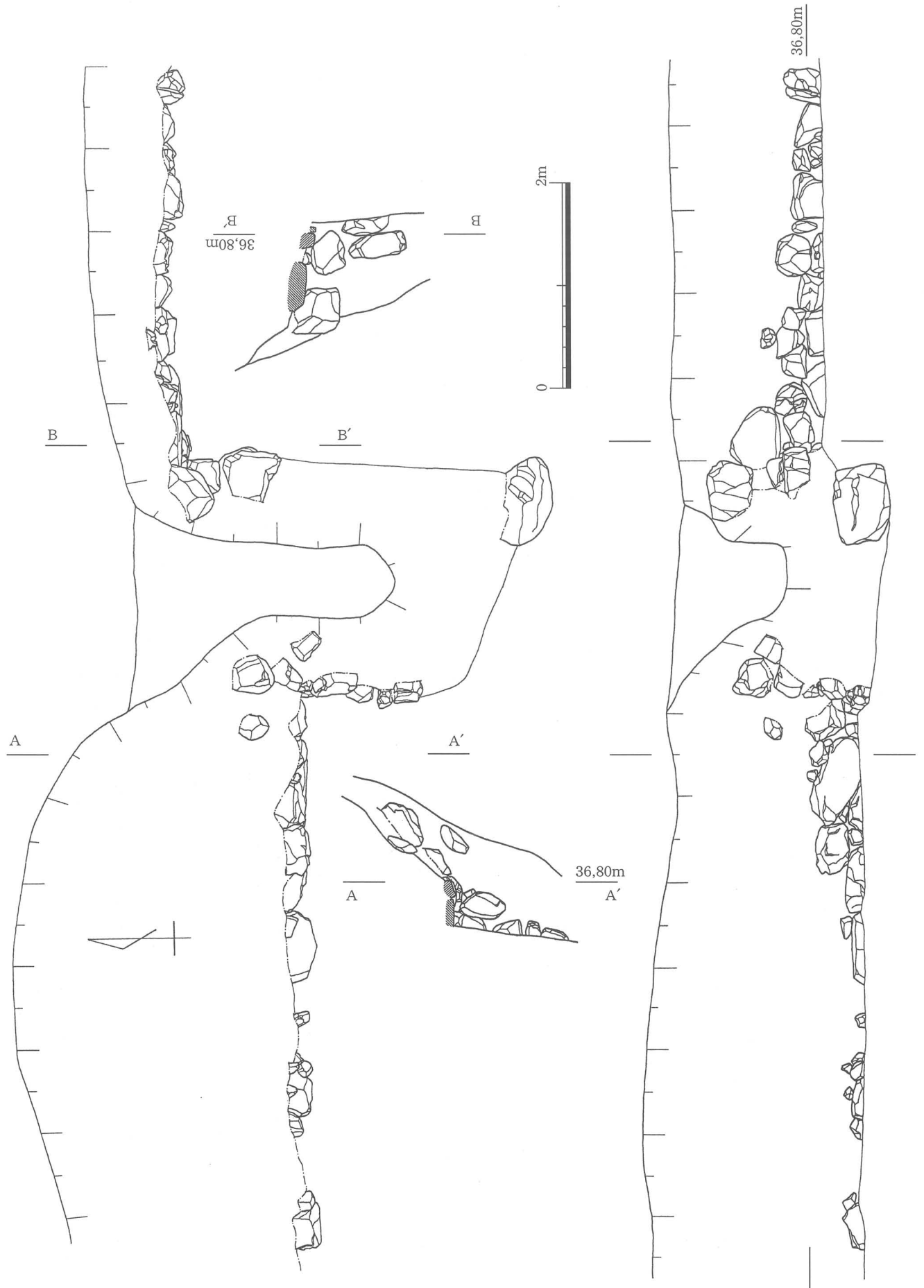
通路状部分にも左右それぞれに袖状に石積が認められる。使用されている石材の大きさは、石垣部分と同規模である。通路状部分の上面については石材等は認められず、構造は不明である。

##### 平坦面Ⅰ東面石列

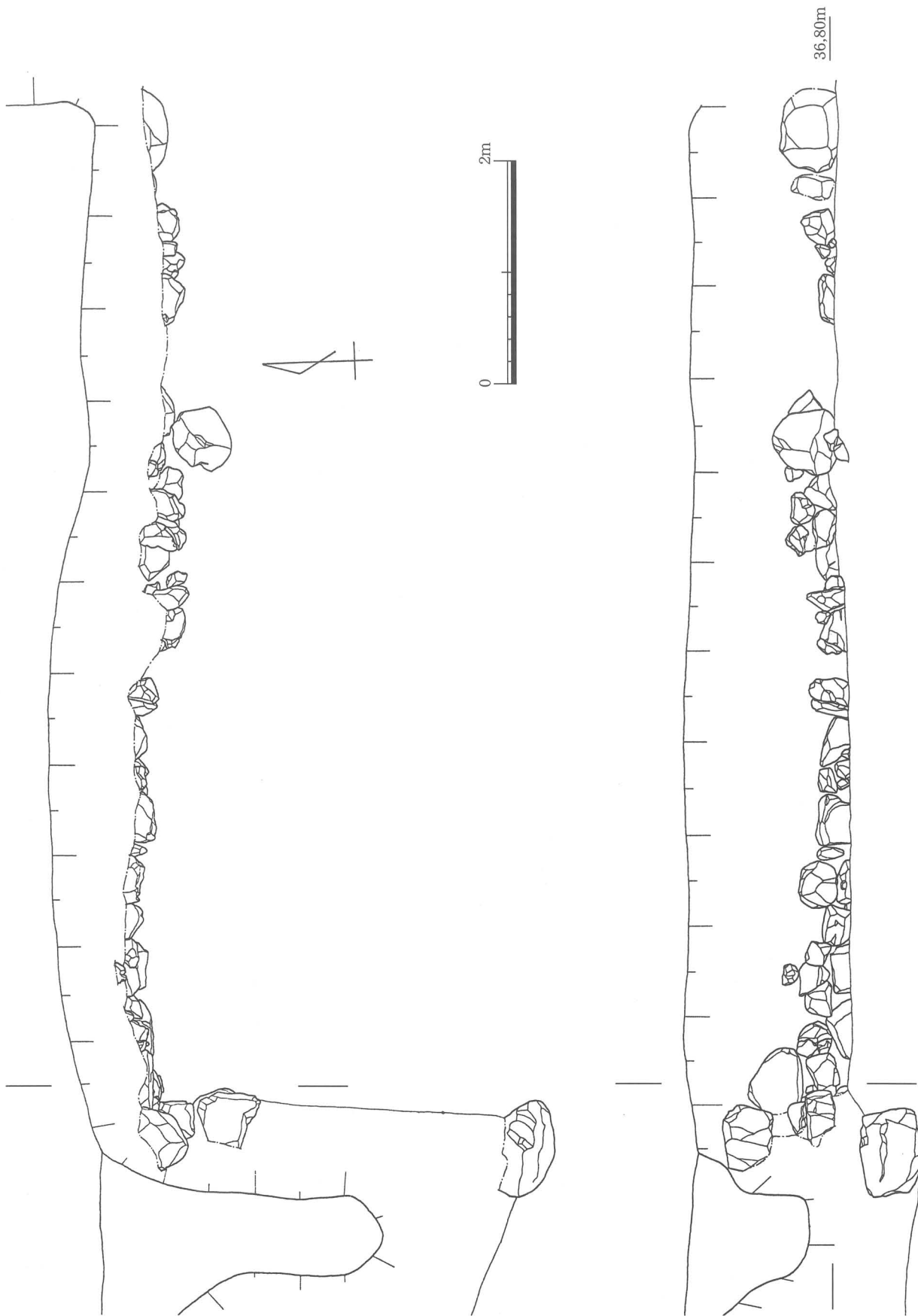
石列は平坦面の東面で、南端から約4.5mが検出された。使用されている石材は、南面の石垣の石材と同規模である。石列自体は石材の抜き取り等による攪乱が著しく、遺存状況はよくない。



第19図 平坦面Ⅰ石垣平面図

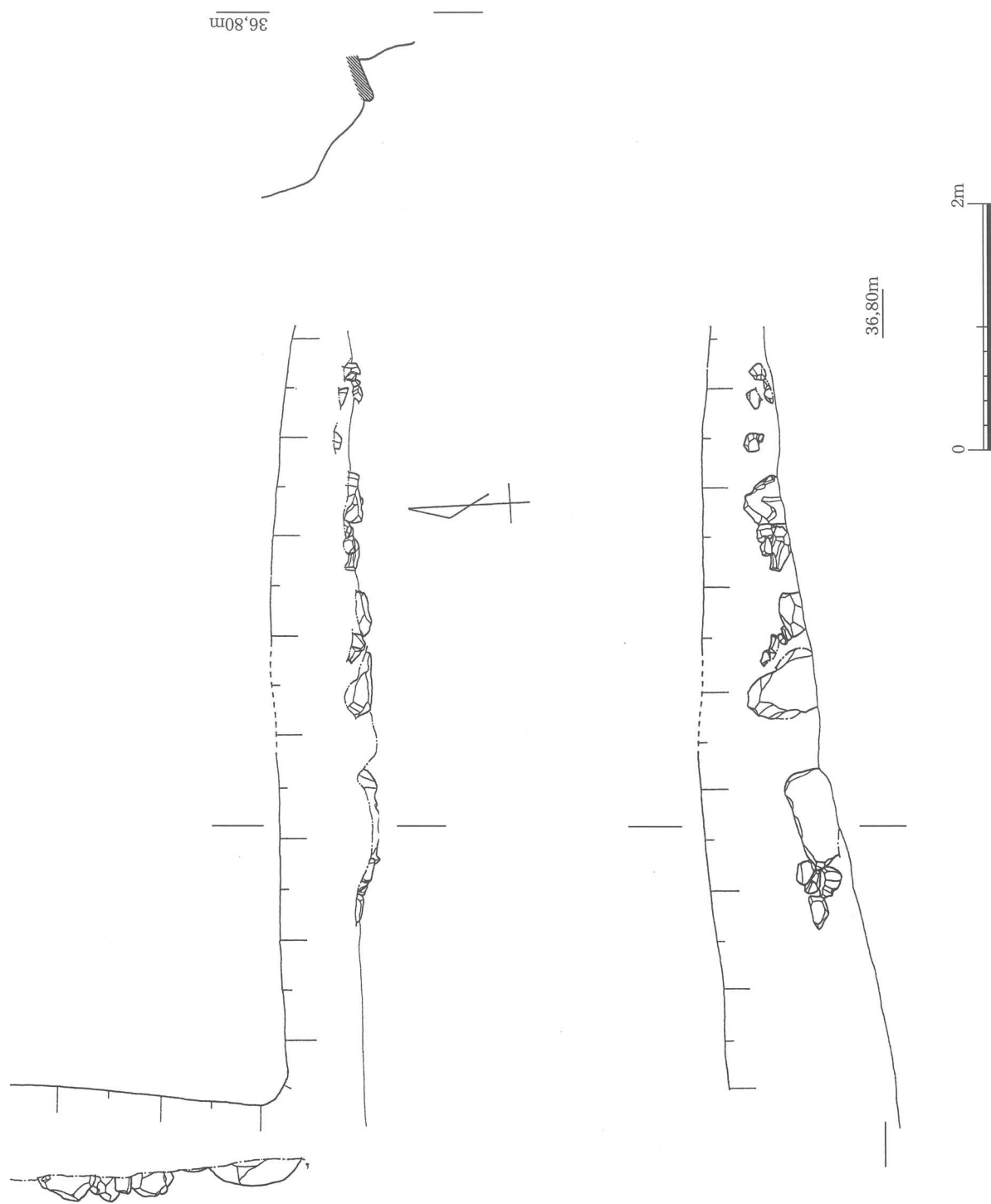


第20图 南面西侧石垣实测图



第21図 南面東側石垣実測図

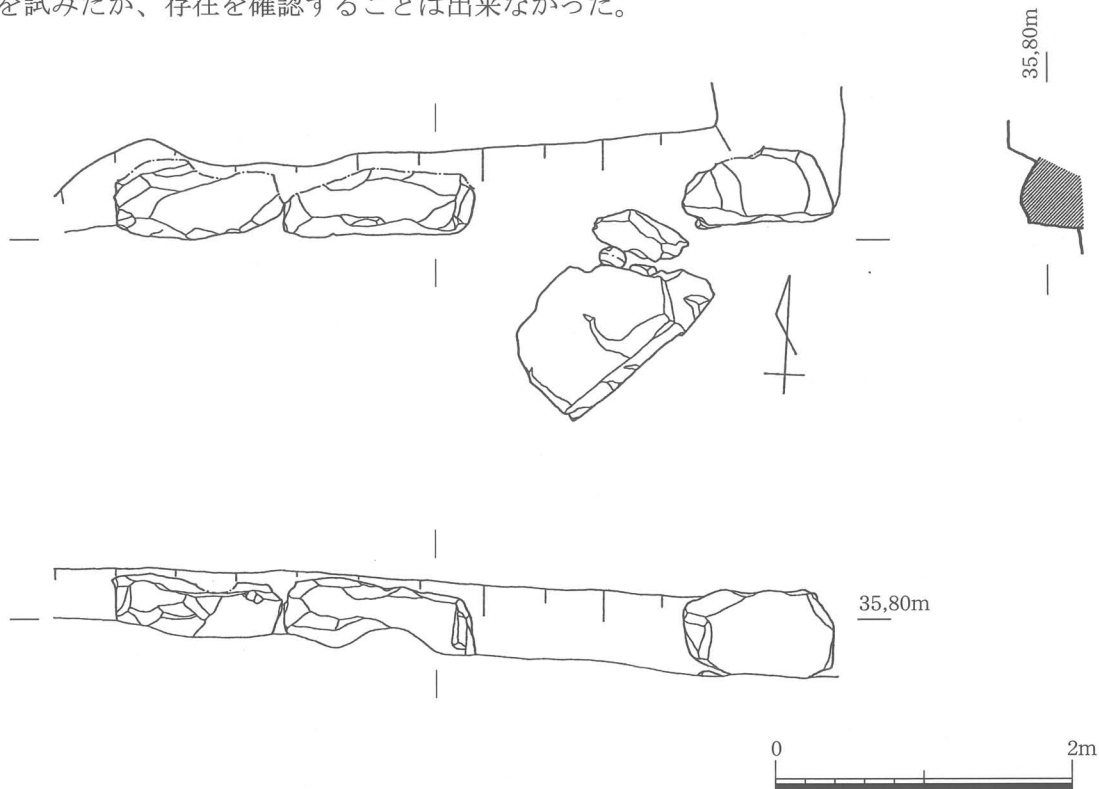




第22図 東面石垣実測図

### 平坦面V南面石列

石列は平坦面の南辺で、約5mが検出された。使用されている石材は、幅約1~1.3m、高さ約50cmと大きな物が1段で用いられている。平坦面東辺の石列の所在については、ボーリングステッキによる探査を試みたが、存在を確認することは出来なかった。



第23図 平坦面V南面石垣実測図

### 出土遺物

遺物は、ほとんどが表面採取によるもので、土師器・瓦数点である。

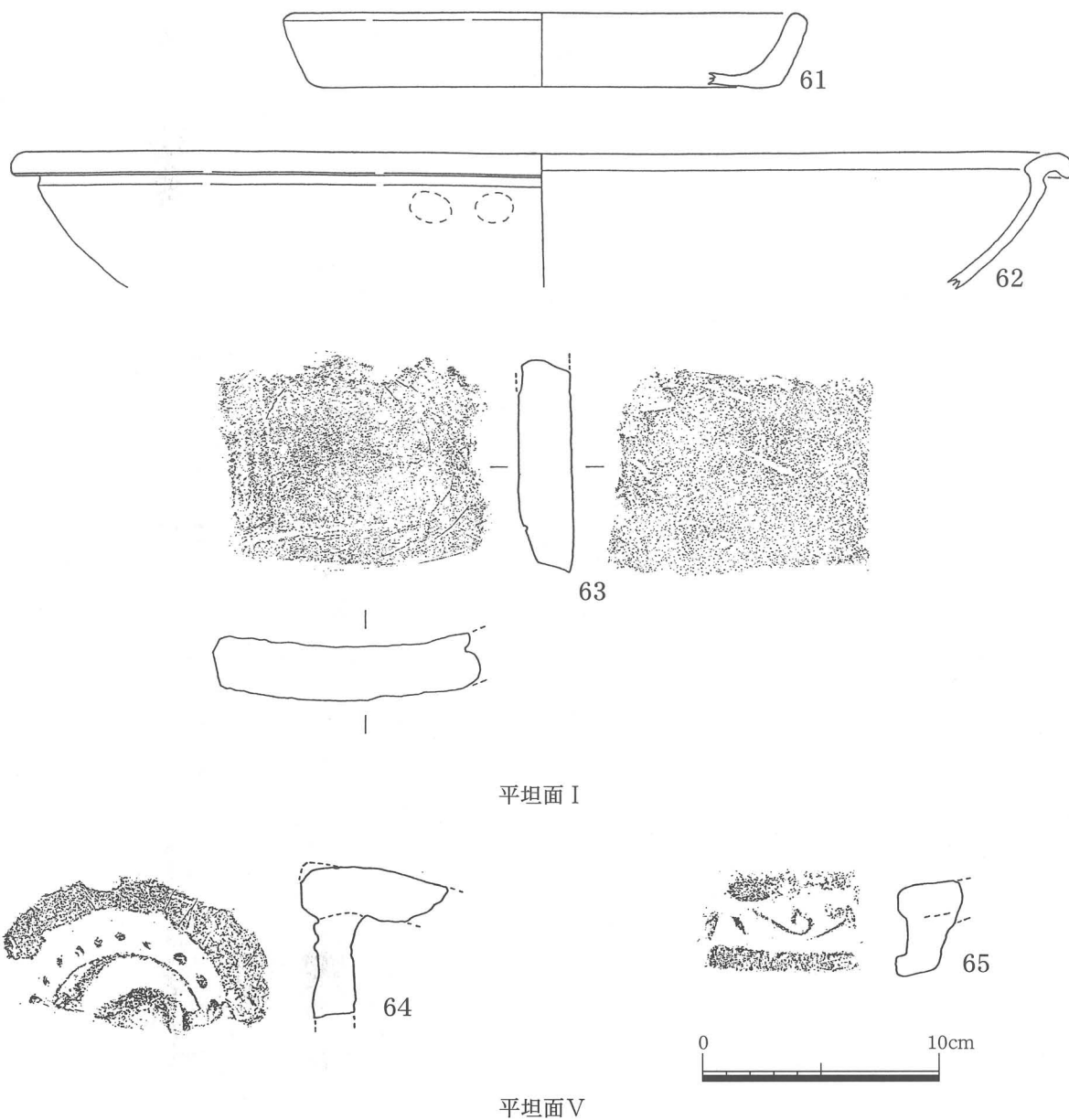
## IV. まとめ

3ヵ年にわたる一連の調査の結果、検出された遺構はわずかで、ほとんどは江戸時代末と考えられるものであり、松尾寺に結びつく明確な遺構は検出することは出来なかったが、各平坦面が黒色土により整地・造成されていること、平坦面I・Vが石垣及び石列で区画されていることが確認されたにとどまった。

平坦面Iは、最も奥まった所に位置し、前面に石垣が用いられていること等から考え、本堂のような重要な施設の存在が想定される。また、平坦面Vについては、西側の井戸の存在と合わせて、その性格を検討する必要がある。

松尾寺の伽藍配置を確定することの出来る明確な遺構が検出されなかった要因としては、中世末の戦乱による荒廃や、近世以降の開墾等の攪乱によるところが大きいと考えられる。ただ、出土遺物中に該当時期の瓦類がほとんど出土しなかったことは、伽藍を構成する建物の構造を考える手がかりになるものと考えられる。

今回の一連の調査の中で特筆すべきことは、小片ではあるが梵字軒平瓦1点が出土したことで、太子町内では初めての出土であり、松尾寺の全体像を窺い知る重要な手がかりとなるものである。



第24図 第3次調査出土遺物

表4 第3次調査出土遺物観察表

番号	出土場所	種別 / 器種	法量 (cm)	調整	色調	実測番号	備考
61	平坦面 I 南 石垣全面	土師器・盤	口径 21.4 器高 3.2 底形 19.8	ヨコナデ	灰褐 7.5YR6/2	0002-2-5	
62	平坦面 I 南 石垣全面	瓦質土器・土鍋	口径 44.0	ナデ 外面上半部指頭圧痕	外 黒褐 10YR3/1 内 鈍い黄褐 10YR5/3	0002-2-2	外面煤付着
63	平坦面 I 南 石垣全面	布目瓦	厚さ 2.3	凹面 布目 凸面 ナデ 端面ヘラ切り	鈍い橙 7.5YR7/3 ~黄灰 2.5Y4/1	0002-2-1	
64	平坦面 V 表採	軒丸瓦			褐灰 10YR4/1	0002-1-1	
65	平坦面 V 表採	軒平瓦			灰褐 7.5YR5/2	0002-1-2	

調査地遠望（南から）



平坦面 I 調査前（南西から）



平坦面IV道路状高まり（南から）



図版 2

第1次調査



トレンチ1 (南西から)



トレンチ2 東西部分 (西から)



トレンチ2 南北部分 (北から)





トレンチ2 南端集石 (南から)



トレンチ3 (南から)



トレンチ3 石列 (南から)

図版 4  
第1次調査



トレンチ 3 石列 (棧瓦)  
(南西から)



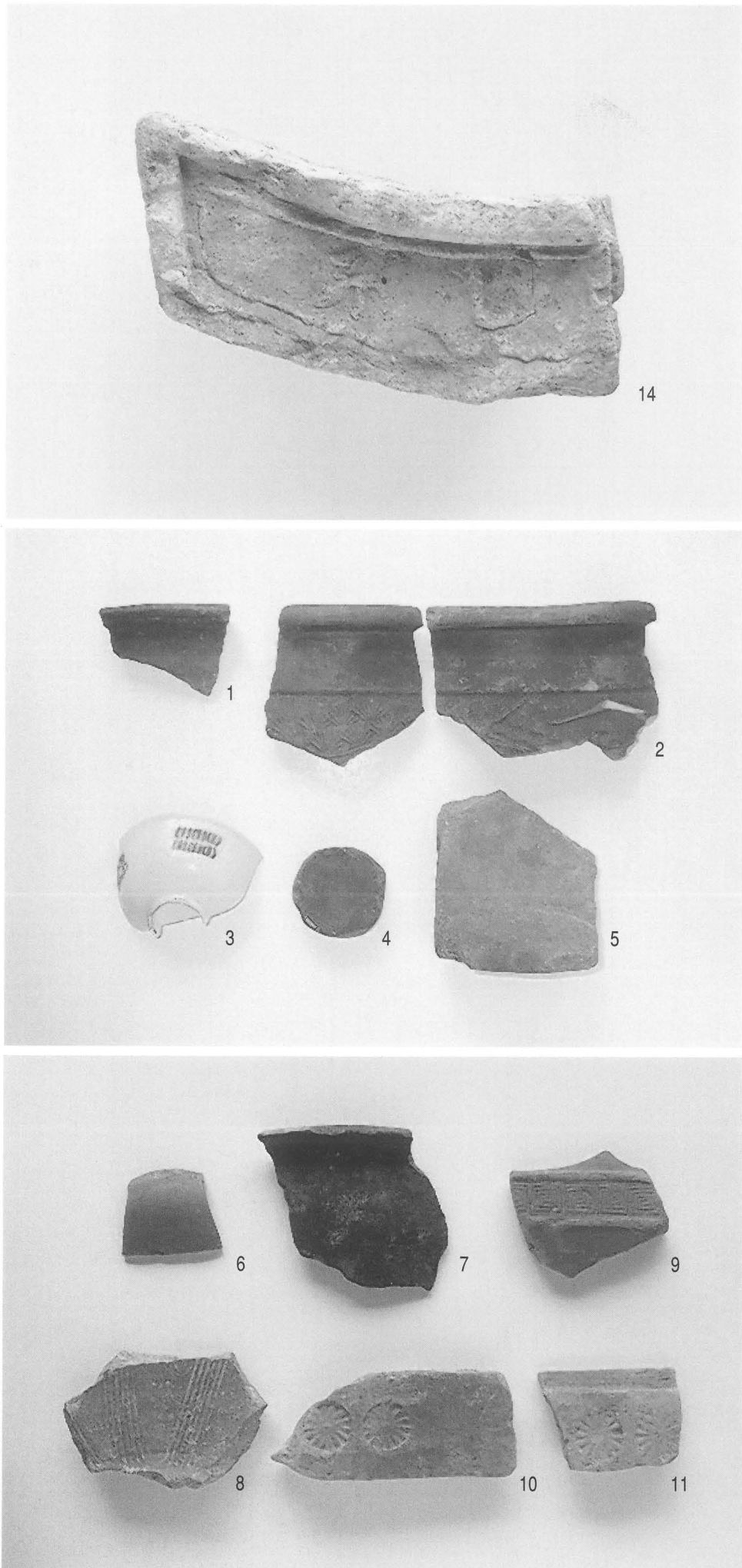
トレンチ 4 (北東から)

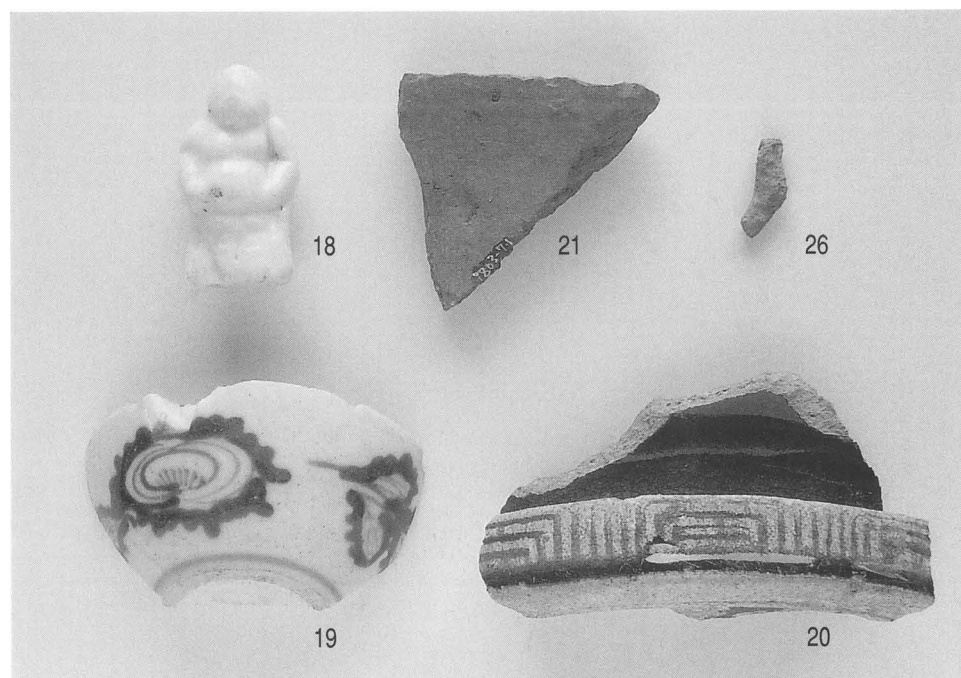
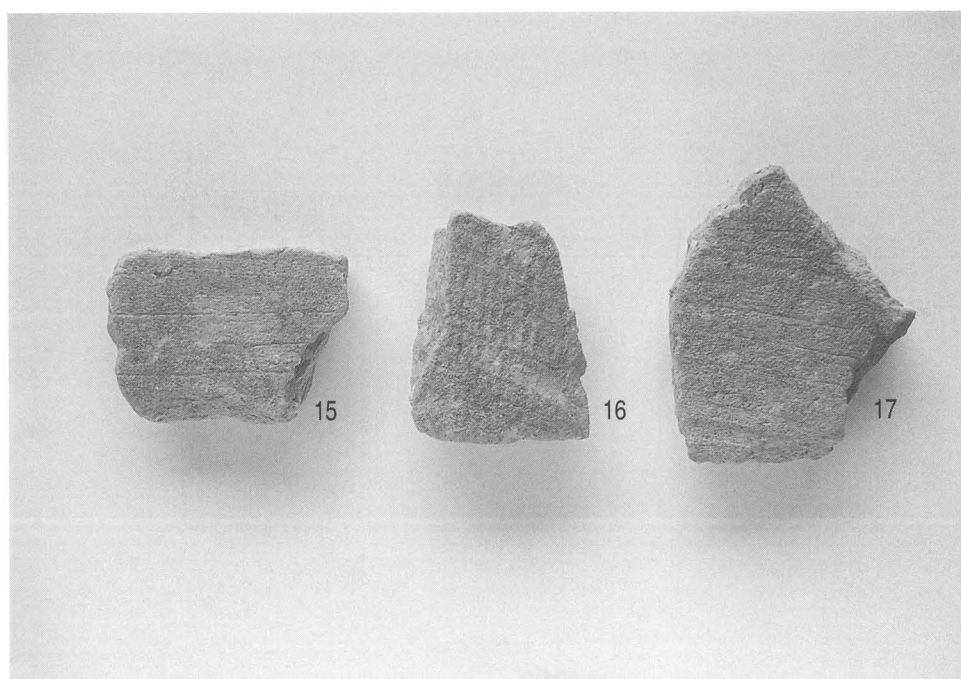


トレンチ 5 (西から)



出土遺物 (1)







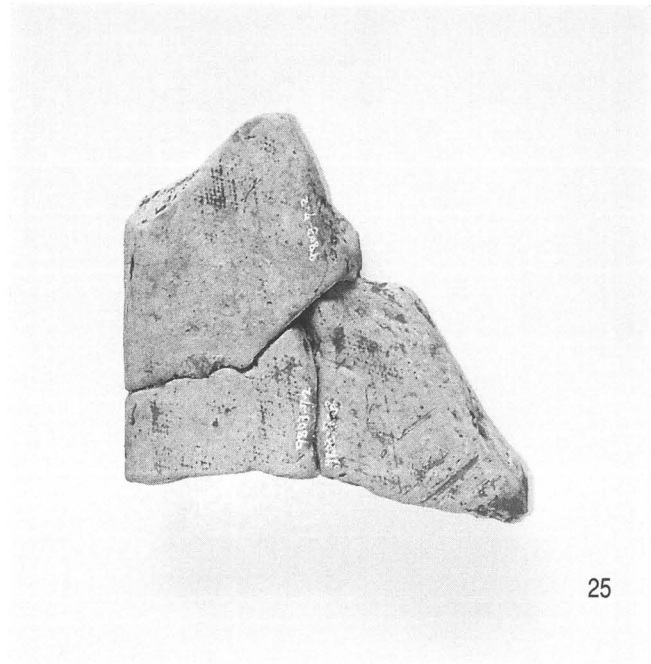
22



23



24



25



27

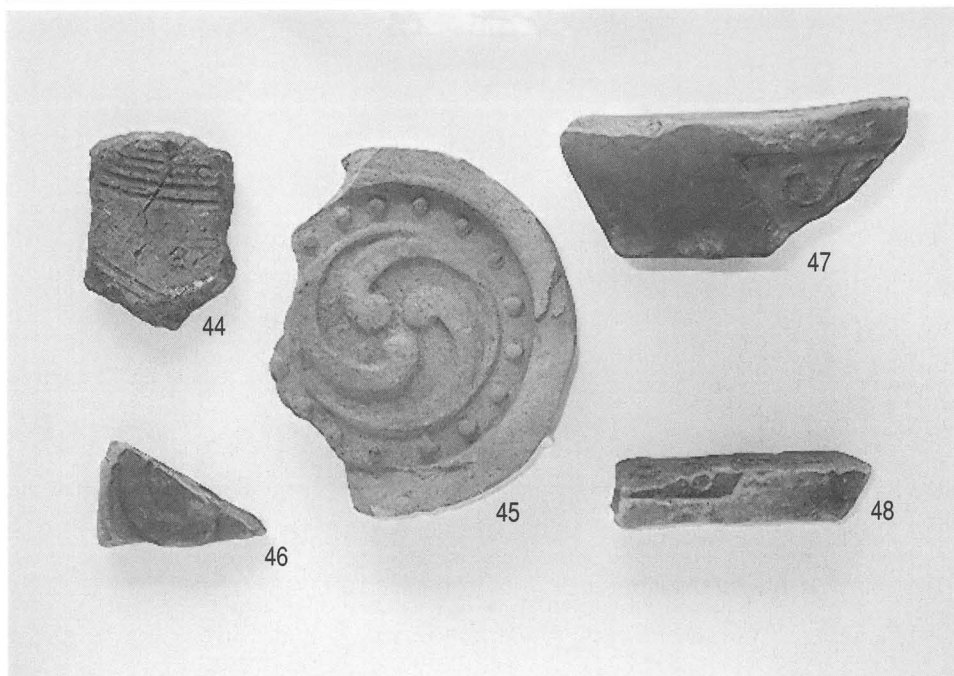
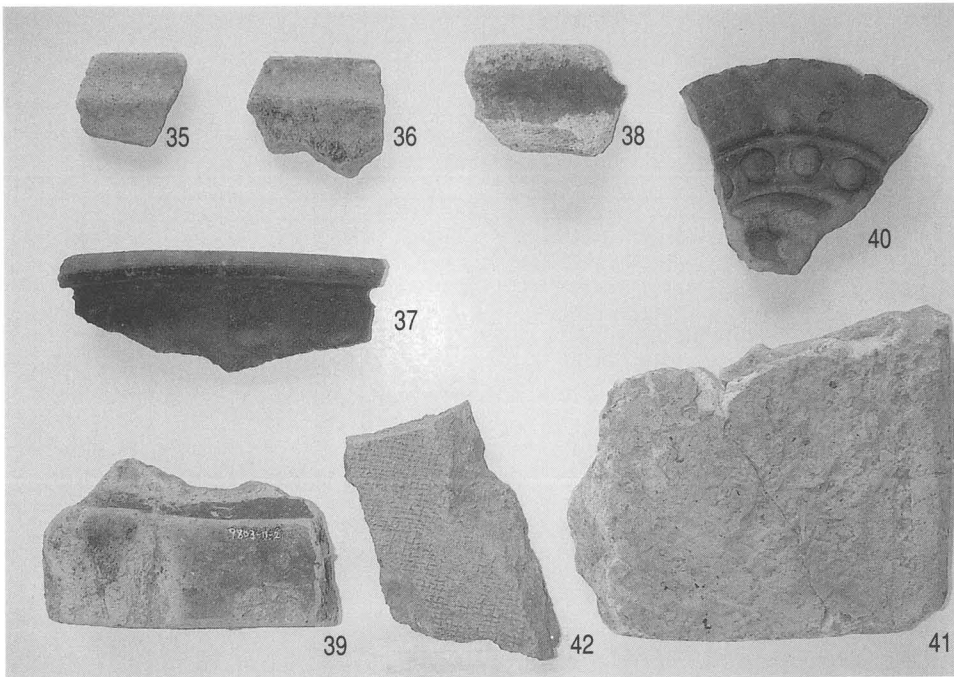
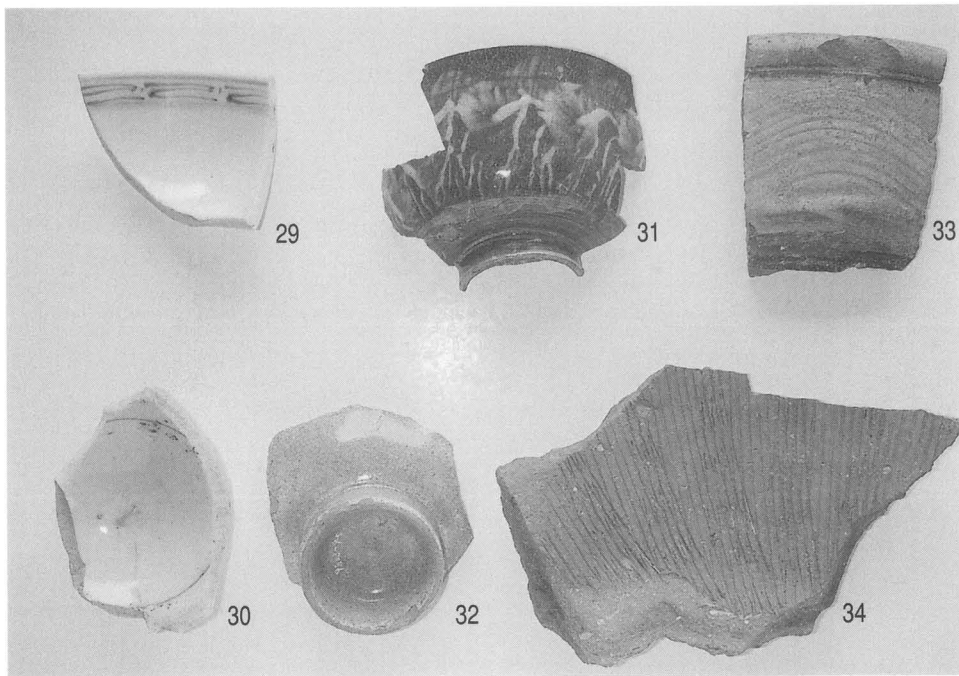


28



図版 8  
第1次調査

出土遺物 (4)





トレンチ1 (南から)



トレンチ1 石列 (北から)



トレンチ2 (西から)



トレンチ3 (東から)



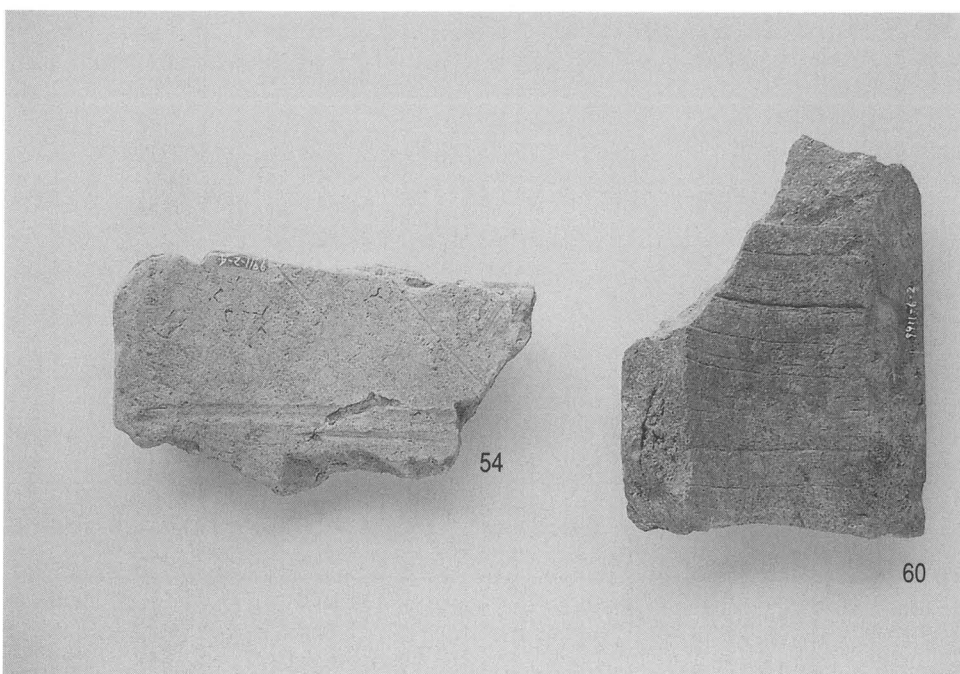
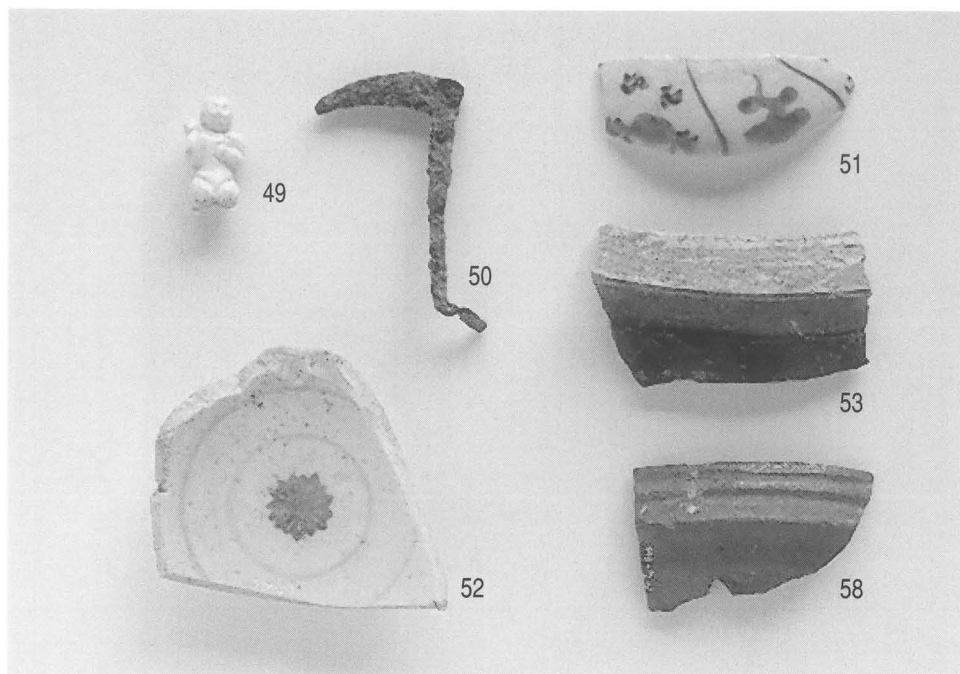
トレンチ4 (東から)



トレンチ4 礎石状石材 (南から)



出土遺物





平坦面 I 南面  
通路状スロープ (南から)



平坦面 I 南面  
石垣・調査前 (南から)



平坦面 I 南面  
西側石垣 (南から)



平坦面 I 南面  
東側石垣（南から）



平坦面 I 南面  
通路状部分西側袖石（南西から）



平坦面 I 南面  
通路状部分東側袖石（南東から）





平坦面Ⅰ東面石垣（南東から）



平坦面Ⅴ南面石列（東から）

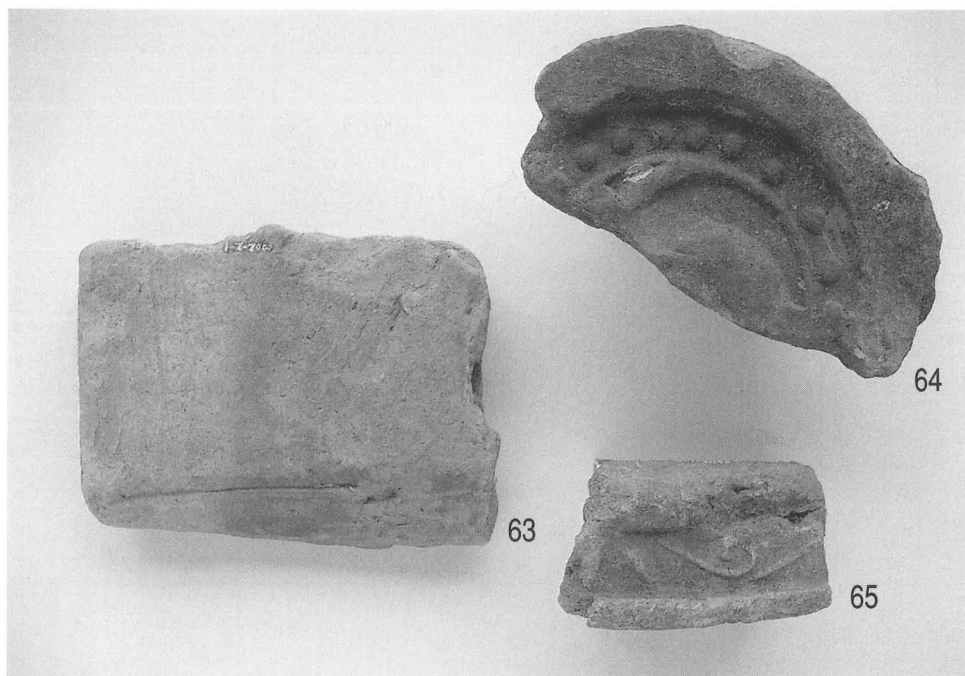
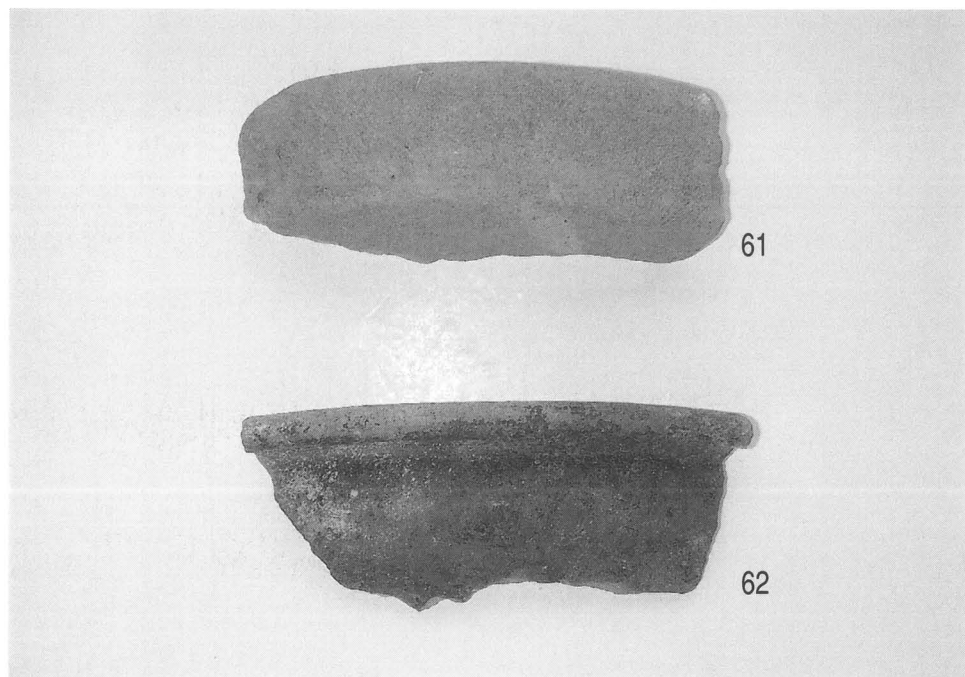


平坦面Ⅴ南面石列（南東から）



平坦面Ⅴ西側井戸（南西から）

出土遺物



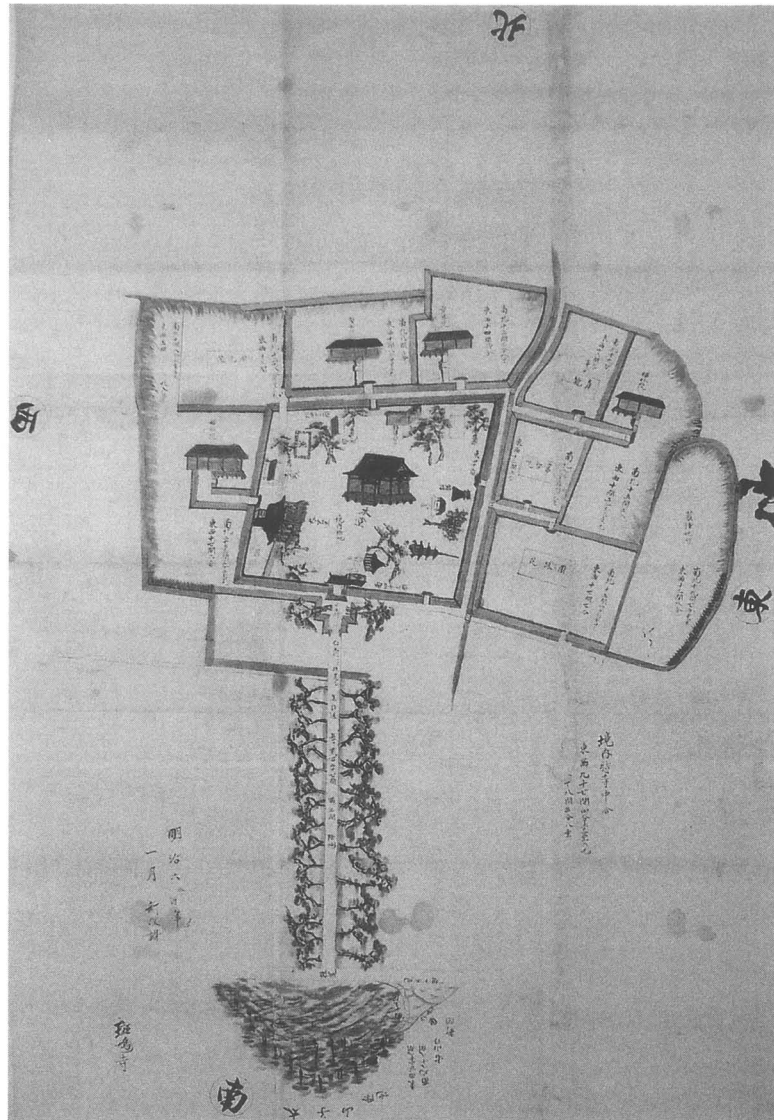








# 斑鳩寺遺跡 (第8・9次調査)



第1図 斑鳩寺境内絵図[明治6年(1873)、斑鳩寺所蔵 141.5 × 97.3cm]





## 例 言

1. 本書は、兵庫県揖保郡太子町鶴字斑鳩寺 709 番地に所在する斑鳩寺遺跡第 8・9 次調査の調査報告書である。
2. 調査は、平成 13 年度から 2 ヶ年にわたり、国庫補助金を得て、町内遺跡確認調査として実施した。
3. 調査は、太子町教育委員が主体となり、同社会教育課三村修次・海野浩幸が担当した。
4. 調査にあたっては、斑鳩寺、揖龍広域シルバー人材センター太子支部の協力を得た。
5. 本書に使用した座標は国土座標第 V 系を、標高は T.P を基準とした。
6. 本書の示す方位は、座標北である。
7. 基準点測量は、喜多村測量株式会社に委託した。
8. 本書の執筆・編集は、三村・海野が行った。
9. 遺物観察表の色調は、日本色研事業株式会社発行の「新版・標準土色帳 1992 年版」による。
10. 本報告書に係る図面・遺物・写真は、太子町教育委員会が保管している。

# 本文目次

## 例言

調査に至る経過	49
調査の概要	51
まとめ	64

# 挿図目次

第1図 斑鳩寺境内絵図	45
第2図 遺跡位置図	49
第3図 調査区配置図	51
第4図 第1トレンチ実測図	53
第5図 第2・3トレンチ実測図	54
第6図 第3トレンチ石組溝実測図	55
第7図 第8次調査出土遺物(1)	56
第8図 第8次調査出土遺物(2)	57
第9図 第8次調査出土遺物(3)	58
第10図 第8次調査出土遺物(4)	59
第11図 第8次調査出土遺物(5)	60
第12図 築地塀復元図	64
第13図 第1トレンチ実測図	65
第14図 第2・3トレンチ実測図	66
第15図 第9次調査出土遺物	67
第16図 第1トレンチ出土「小柄」	68

# 表目次

表1 第8次調査出土遺物観察表(1)	61
表2 第8次調査出土遺物観察表(2)	62
表3 第9次調査出土遺物観察表	69

## 図 版 目 次

### 第 8 次調査

- 図版 1 上 第 1 トレンチ (北から)  
中 第 1 トレンチ (南から)  
下 第 1 トレンチ土塀 (西から)
- 図版 2 上 第 2 トレンチ (南西から)  
中 第 2 トレンチ溝 2 (北から)  
下 第 2 トレンチ西壁断面
- 図版 3 上 第 3 トレンチ (西から)  
中 第 3 トレンチ石組溝 (南から))  
下 石組溝転用五輪塔「火輪」

### 第 9 次調査

- 図版 4 上 調査風景「トライやる・ウィーク」  
中 第 1 トレンチ (南西から)  
下 第 1 トレンチ (東から)
- 図版 5 上 第 1 トレンチ P-1 (北から)  
中 第 1 トレンチ西壁断面  
下 第 1 トレンチ南壁断面
- 図版 6 上 第 2 トレンチ (東南から)  
中 第 2 トレンチ北壁断面  
下 第 3 トレンチ (南西から)

## 斑鳩寺遺跡(第8・9次調査)

### 1. 遺跡の所在地

揖保郡太子町鶴字斑鳩寺 709 番地

### 2. 調査機関

揖保郡太子町教育委員会

### 3. 調査担当者

太子町教育委員会社会教育課 三村修次  
同 海野浩幸

### 4. 調査期間

第8次調査 ・ 平成14年3月1日～3月31日

第9次調査 ・ 平成14年1月7日～1月28日

### 5. 調査面積

第8次調査 ・ 115 m<sup>2</sup>

第9次調査 ・ 53.5 m<sup>2</sup>

### 6. 記録作成

遺構実測図(1/10・1/20)、土層実測図(1/20)、トレンチ配置図(1/500)、遺物実測図(1/1)、  
写真記録(カラーカラーリバーサル 35mm・カラー 120mm 6×7版・デジタルカメラ撮影)、国土座標第V系  
北緯(34度50分02秒)、東経(134度34分39秒)



第2図 遺跡位置図(1/25,000)

### 7. 調査に至る経過

斑鳩寺遺跡は、太子町鶴字斑鳩寺に所在する天台宗に属する寺院である斑鳩寺境内及びその周辺部に所在し、これまでに重要美術品保存庫新築工事(第1次調査・昭和53年度)、聖徳会館建築工事(第2・3次調査・平成58年度)、斑鳩寺公園雨水幹線工事(第4次調査・昭和61年度)、納経所建築工事(第5次調査・昭和63年度)、防火水槽設置工事(第6・7次調査・平成6年度)に伴い7次にわたる発掘調査が実施されている。

第1次調査では、薬師堂跡・弁天社跡・放生池跡が、第2・3次調査では、江戸期の子院である双樹院及び圓光院の遺構が、第4次調査では、天文10年(1541)の斑鳩寺焼失に関連する焼土層とその下層で創建当時の仁王門基壇が、第5次調査では、仁王門基壇東端と宝相華文軒平瓦が、第6・7次調査では、仁王門前参道西側の築地塀基壇・土坑等がそれぞれ検出されている。

今回、法隆寺領播磨国鶴庄荘園保存整備に伴い、その検討資料を得ることを目的に、国庫補助金を得て平成13年度と平成14年度の2ヵ年にわたり発掘調査を実施した。平成13年度が第8次調査、平成14年度が第9次調査である。調査地の現況は、斑鳩寺公園として整備されており、標高は15.5m前後を測る。

## 【調査体制】

### [平成 13 年度・第 8 次調査]

調査期間 平成 14 年 3 月 1 日～平成 14 年 3 月 31 日

調査面積 115 m<sup>2</sup>

事務局	教育長	圓尾哲一
	教育次長	山本庄一郎
	社会教育課長	森川秀敏
	社会教育副課長	和辻秀泰
	社会教育係長	栗岡佳代

発掘調査担当	社会教育課主査	三村修次
	社会教育課主事	海野浩幸

### [平成 14 年度・第 9 次調査]

調査期間 平成 14 年 11 月 7 日～平成 14 年 11 月 28 日

調査面積 53.5 m<sup>2</sup>

事務局	教育長	圓尾哲一
	教育次長	山本庄一郎
	社会教育課長	森川秀敏
	社会教育副課長	和辻秀泰
	社会教育係長	菅田ゆき

発掘調査担当	社会教育課主査	三村修次
	社会教育課主査	海野浩幸

### [発掘作業従事者]

岩下義秀・小寺睦夫・小林利明・小松和歳・寺見輝男・三枝順二・森川恒晴・矢内春生  
太子町立西中学校 2 年生 [片岡勝利・信高翔太・山口和弥]

### [整理作業従事者]

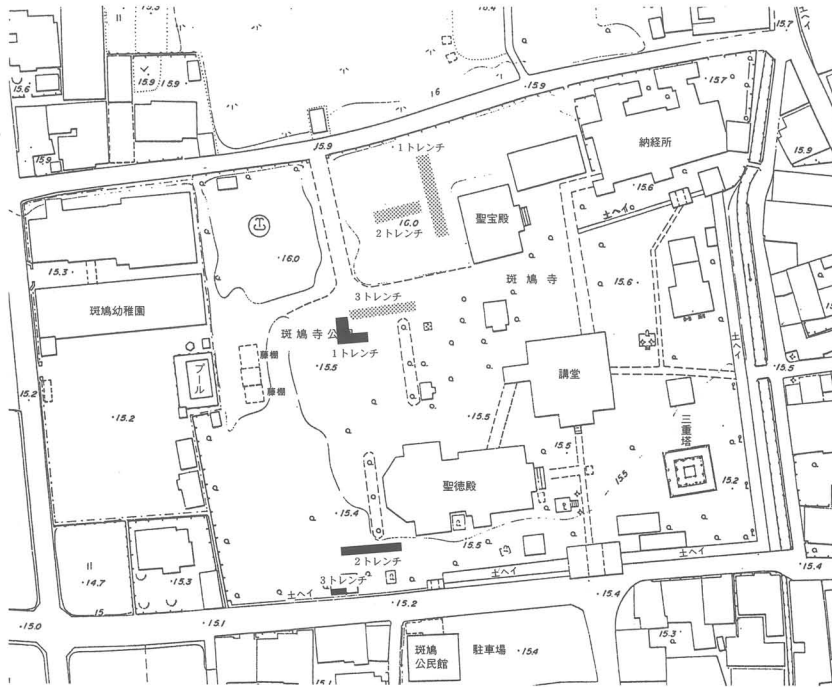
井川ミキ子・改発法子・加藤美穂・小林雅美・塚本フミエ・中村豊子・三笠信子・大津早苗

### [調査協力者・協力機関]

大谷康文・梶木良夫・小林基伸・田中幸夫・斑鳩寺・揖龍広域シルバー人材センター・喜多村測量株式会社・兵庫県教育委員会

## 8. 調査の概要

調査は、平成13年度の第8次調査では境内北部にトレンチ3カ所、平成14年度の第9次調査では境内西部にトレンチ3カ所を設定して実施した。なお、平成14年度の調査では、社会体験活動「トライやる・ウィーク」の一環として、太子町立西中学校2年生3名が発掘調査に参加した。



▨ = 第8次調査区    ■ = 第9次調査区

第3図 調査区配置図(1/2,000)

### 【第8次調査(平成13年度)】

第8次調査では、境内北部の聖宝殿西方に2カ所(第1・2トレンチ)、聖宝殿南西約30mの所に1カ所(第3トレンチ)の、計3カ所を設定して実施した。

調査区の基本土層は、上層から公園盛土(20~60cm)、暗灰色旧表土(約10cm)、淡褐色土(約15cm)、褐色土(10~20cm)で黄褐色土の地山となる。第1トレンチでは、褐色土の下層で古墳時代後期の遺物包含層である暗灰褐色土層と、さらにその下層で弥生時代中期の遺物包含層である褐色砂質土層が確認された。

### 第1トレンチ

南北に側溝を伴う土塀の基礎と、古墳時代後期の包含層上面で柱穴7基、弥生時代中期の包含層上面で土坑1基が検出された。

#### 土塀基礎

トレンチ中央部北よりで検出された。東西方向に延びるもので、南北に側溝を伴い、検出面での幅約2.0mを測る。南側溝は、幅約1.3m、深さ約50cmを測り、断面形は逆台形を呈する。北側溝は、幅約1.1m、深さ約40cmを測り、断面形は逆台形を呈する。北側溝内からは、土塀から落下したと考えられる江戸期の平瓦が出土した。

## 柱穴

トレンチ南半で 7 基検出された。古墳時代後期の遺物包含層である暗灰褐色土の上面から掘り込まれており、直径 15～30cm、深さ 14～25cm を測る。建物としてまとまるものは認められなかった。

## 土坑

トレンチ南端で検出された。弥生時代中期の遺物包含層である褐色砂質土の上面から掘り込まれており、直径約 60cm、深さ約 20cm を測る。全体形は、東端が調査区外のため不明であるが、円形を呈するものと考えられる。

## 第 2 トレンチ

東西方向に走る溝(溝 1)、南北方向に走る溝(溝 2)、柱穴 9 基が検出された。

### 溝 1

トレンチ北西端で 5.5m が検出され、東端は溝 2 に切られている。深さ約 80cm を測り、北側は調査区外へ延びているため、幅は不明である。

### 溝 2

トレンチ中央部で検出され、南北方向に走る。小規模な石列を伴っており、幅約 40cm、深さ約 20cm を測る。断面形は箱型を呈する。

### 柱穴

溝 2 東側に集中しており、直径 20～40cm、深さ 16～47cm を測る。建物としてまとまるものは認められなかった。

## 第 3 トレンチ

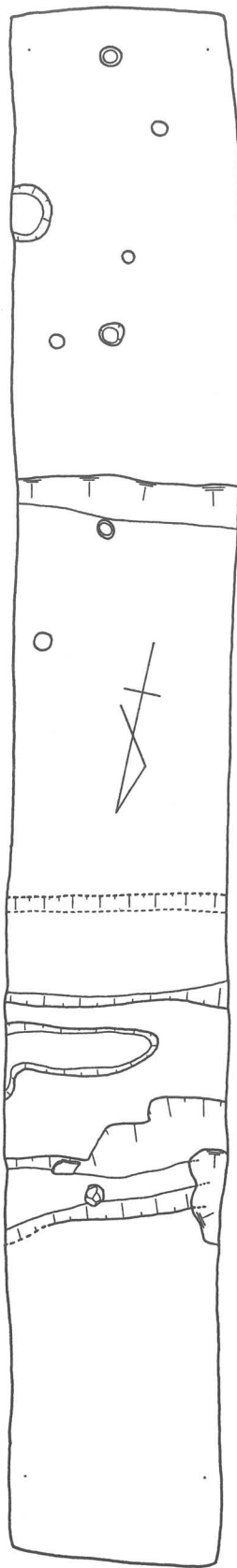
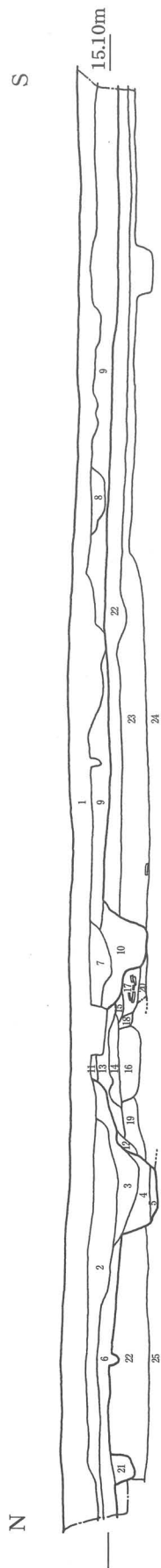
東西築地塀基壇と、江戸時代初期と考えられる石組溝を検出した。

### 東西築地塀基壇

築地塀は南北に側溝を伴うもので、黄褐色砂質土の地山を削り出して造られており、検出面での幅約 2.1m を測る。両側溝は、南北両端が調査区外のため幅は不明であるが、深さは南側溝では約 40cm、北側溝では約 50cm を測り、北側の方が深くなっている。

### 石組溝

トレンチ東端で検出され、築地塀を斜めに横切る様に南西方向に走る。幅約 30cm、深さ約 40cm を測り、石材には長さ 30～50cm 大の角礫と、長さ 20～30cm 大の川原石を交えて、1 段ないし 2 段に積まれている。また、五輪塔の火輪部分が 1 個体転用されている。検出時では南端で、蓋石 1 個が確認されただけであるが、本来は蓋石を備えた暗渠であったと考えられる。掘り方裏込めには、多量の備前焼大甕の破片が用いられている。

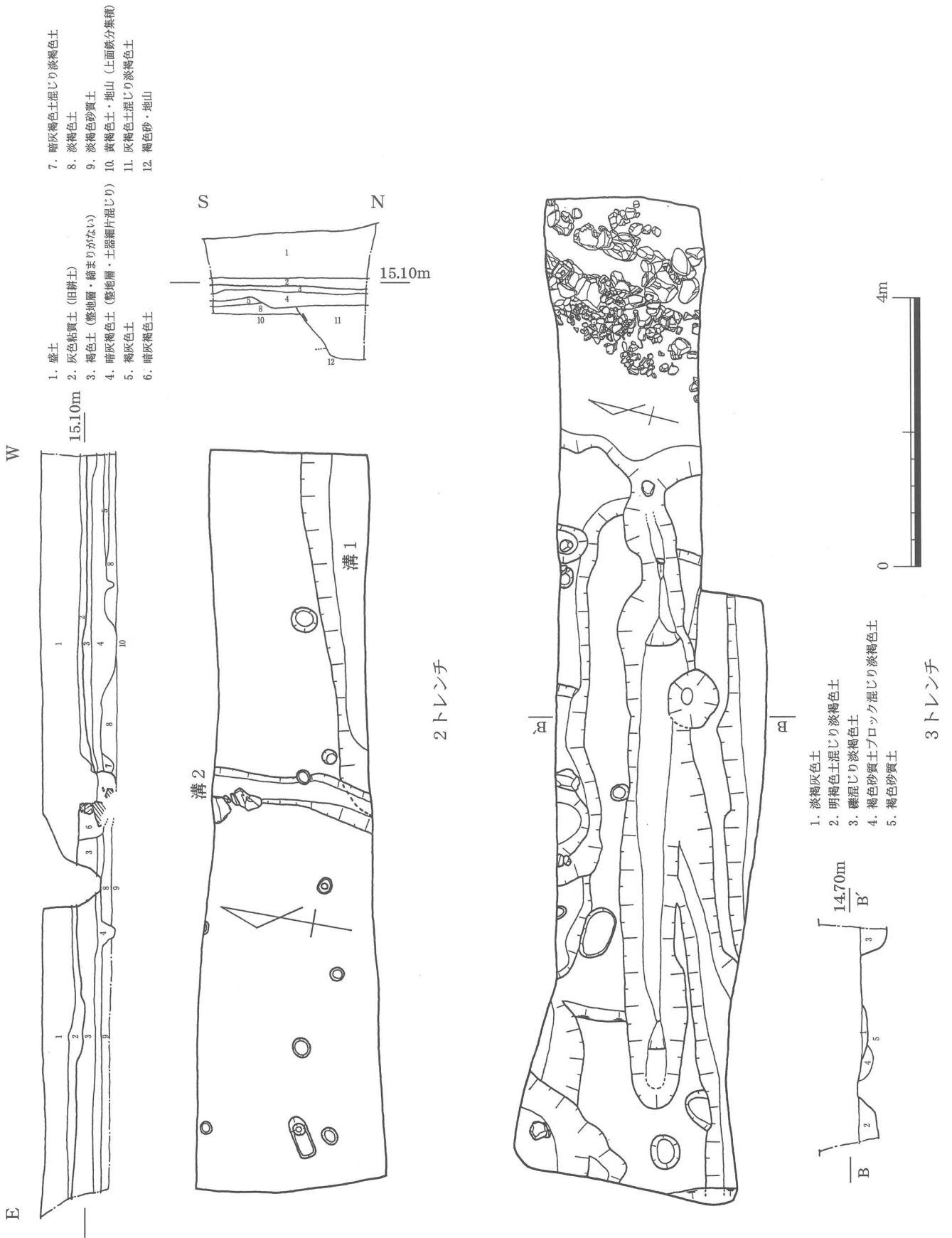


- |                          |                              |
|--------------------------|------------------------------|
| 1. 盛土                    | 14. 明灰色土・やや粘質 (築地塀基礎土)       |
| 2. 機乱層 (瓦・コンクリートブロック混じり) | 15. 褐色土 (築地塀基礎土)             |
| 3. 灰色土 (縮まりがない)          | 16. 黒褐色土                     |
| 4. 淡褐色土                  | 17. 淡黄褐色砂質土 (瓦混じり)           |
| 5. 暗灰色砂質土                | 18. 淡黄褐色砂質土混じり暗褐色土           |
| 6. 灰色土・やや粘質 (田耕土)        | 19. 淡灰色土混じり褐色土               |
| 7. 褐色土混じり灰色土 (小円礫混じり)    | 20. 暗灰褐色土                    |
| 8. 灰色砂混じり淡褐色土            | 21. 淡褐色土混じり黒褐色土 (柱穴埋土)       |
| 9. 淡褐色土 (長く縮まる)          | 22. 褐色土 (整地層・縮まりがない、土器細片混じり) |
| 10. 褐色土                  | 23. 暗灰褐色土 (整地層・土器細片混じり)      |
| 11. 褐色土混じり灰色土 (築地塀基礎土)   | 24. 褐色砂質土 (弥生式土器包含)          |
| 12. 淡褐色土 (築地塀基礎土)        | 25. 円礫混じり黄色土・地山              |
| 13. 暗褐色土混じり褐色土 (築地塀基礎土)  |                              |

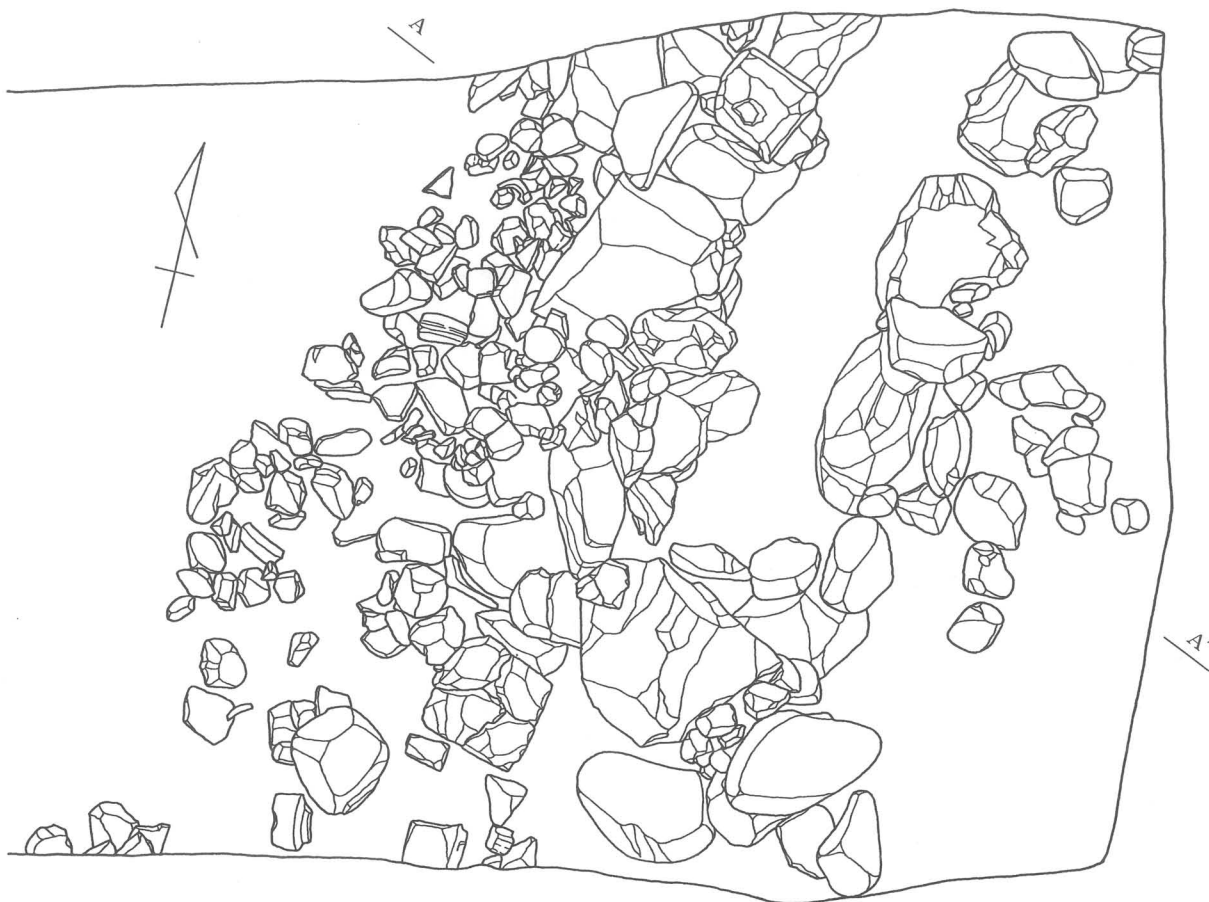


第4図 第1トレンチ実測図

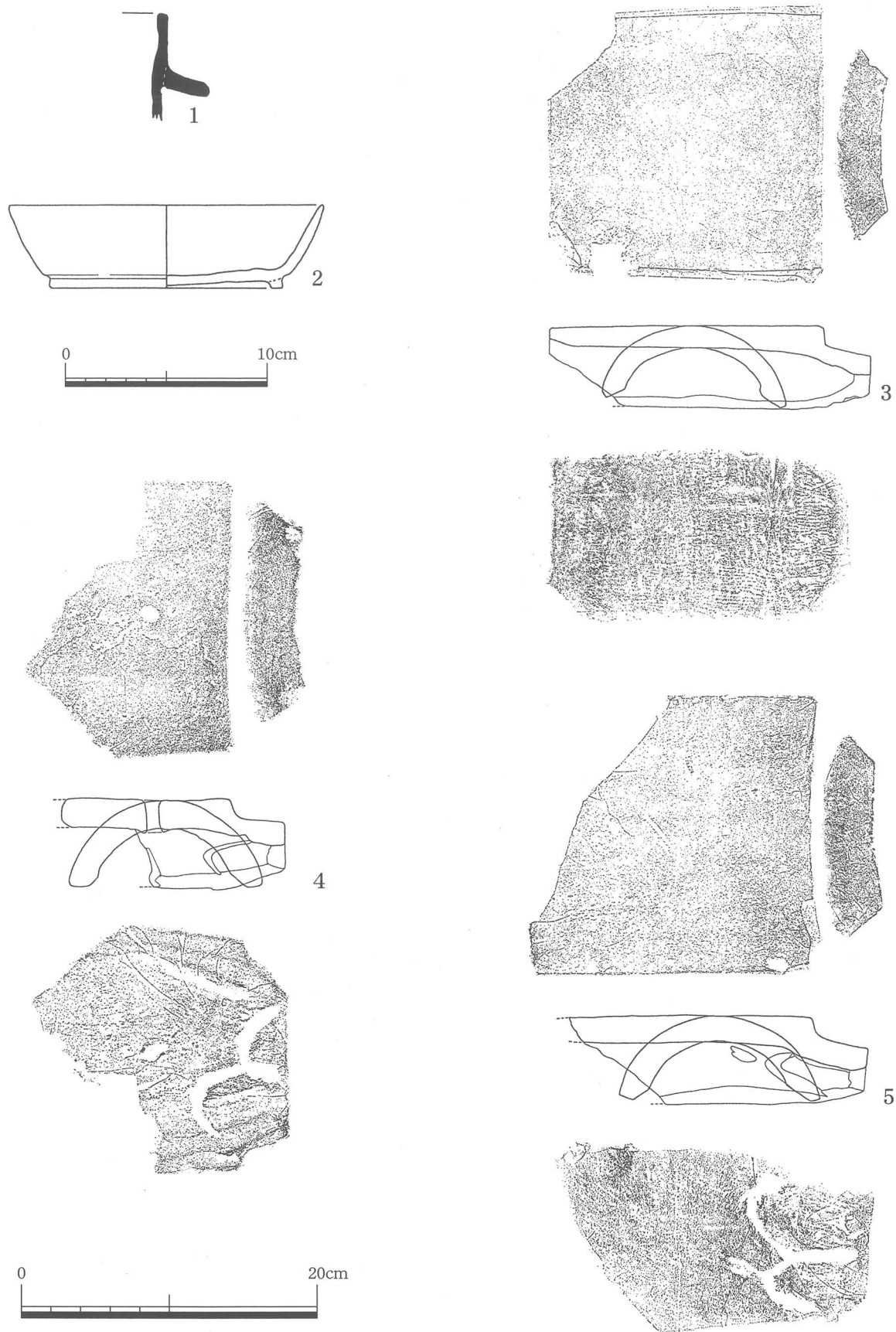




第5図 第2・3トレンチ実測図



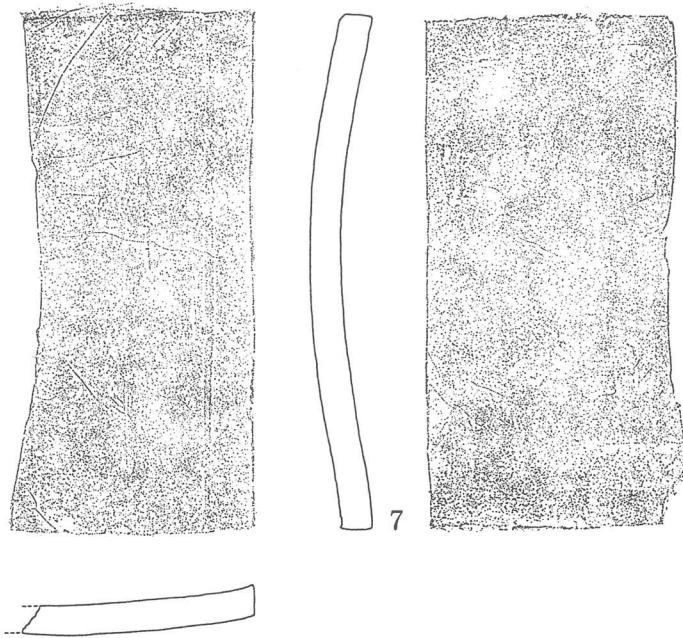
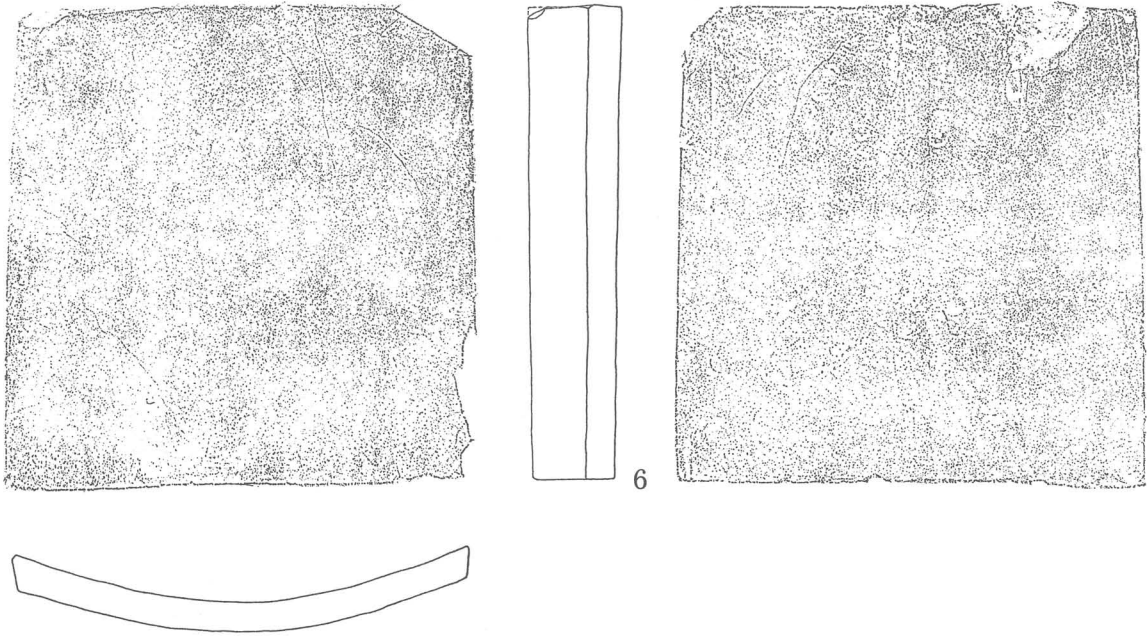
第6図 第3トレンチ石組溝実測図



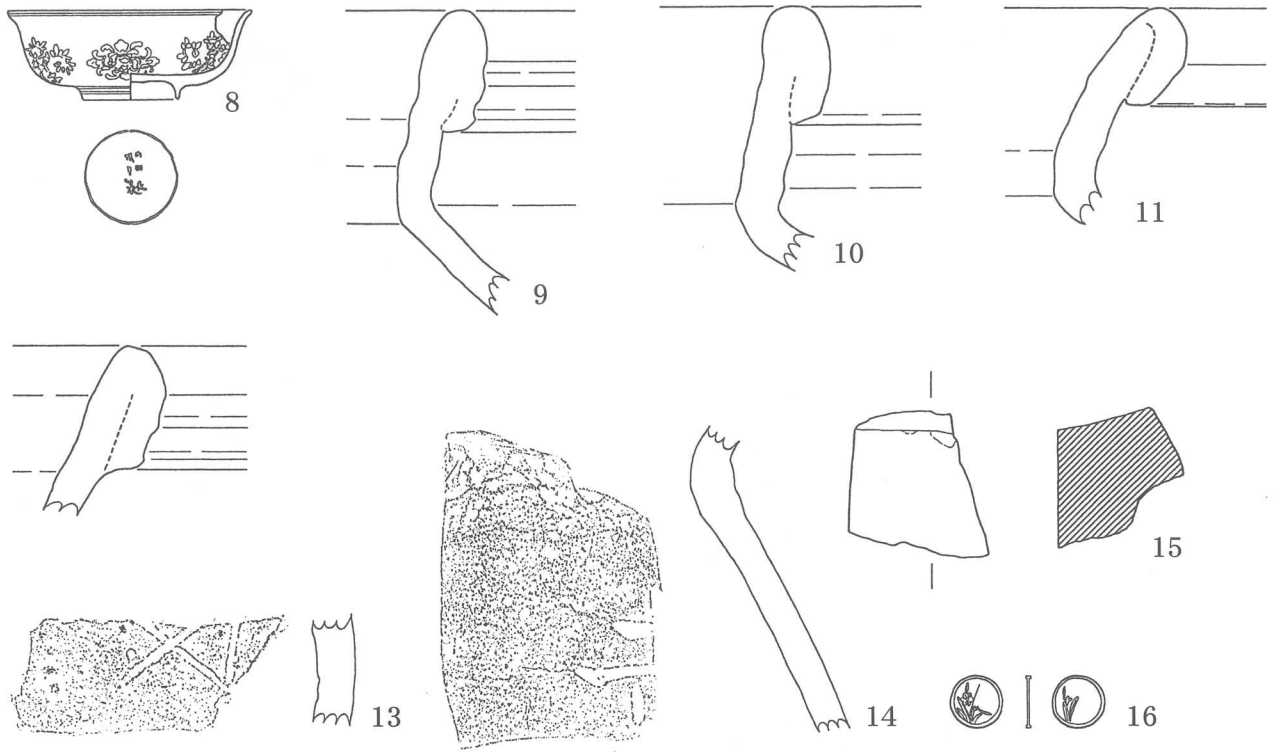
土塀北側溝

第1トレンチ出土遺物(1)

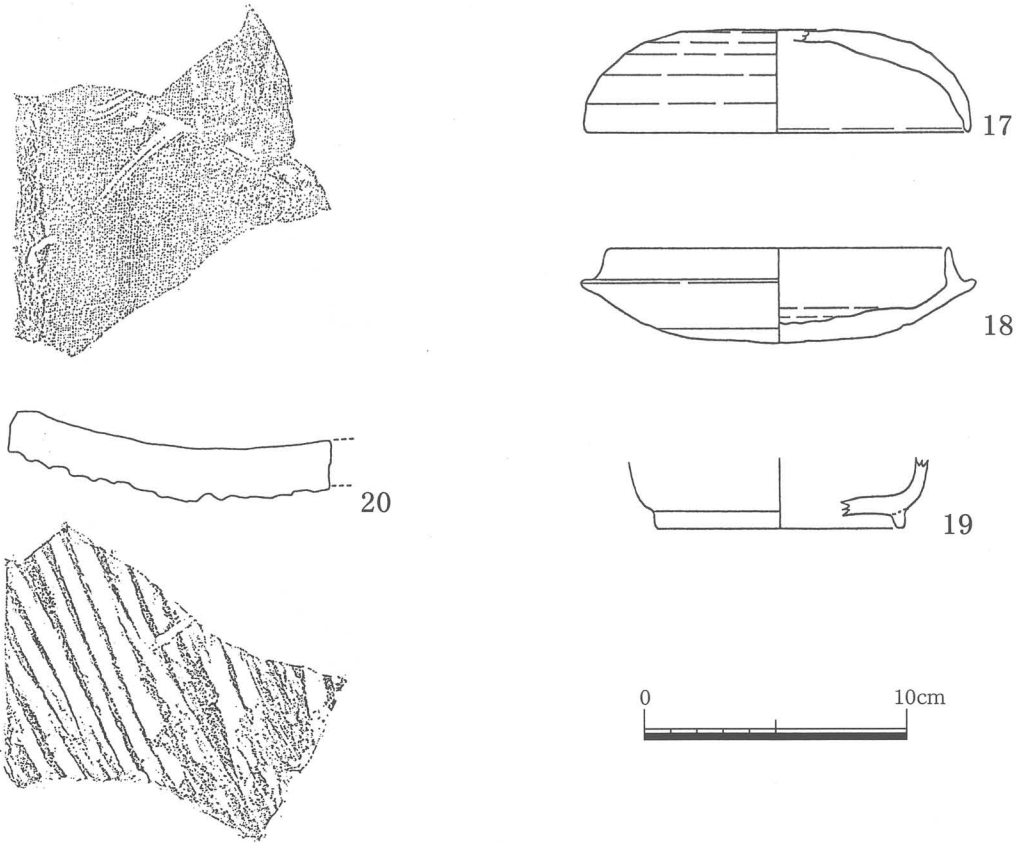
第7図 第8次調査出土遺物(1)



土塀北側溝  
 第1トレンチ出土遺物(2)  
 第8図 第8次調査出土遺物(2)



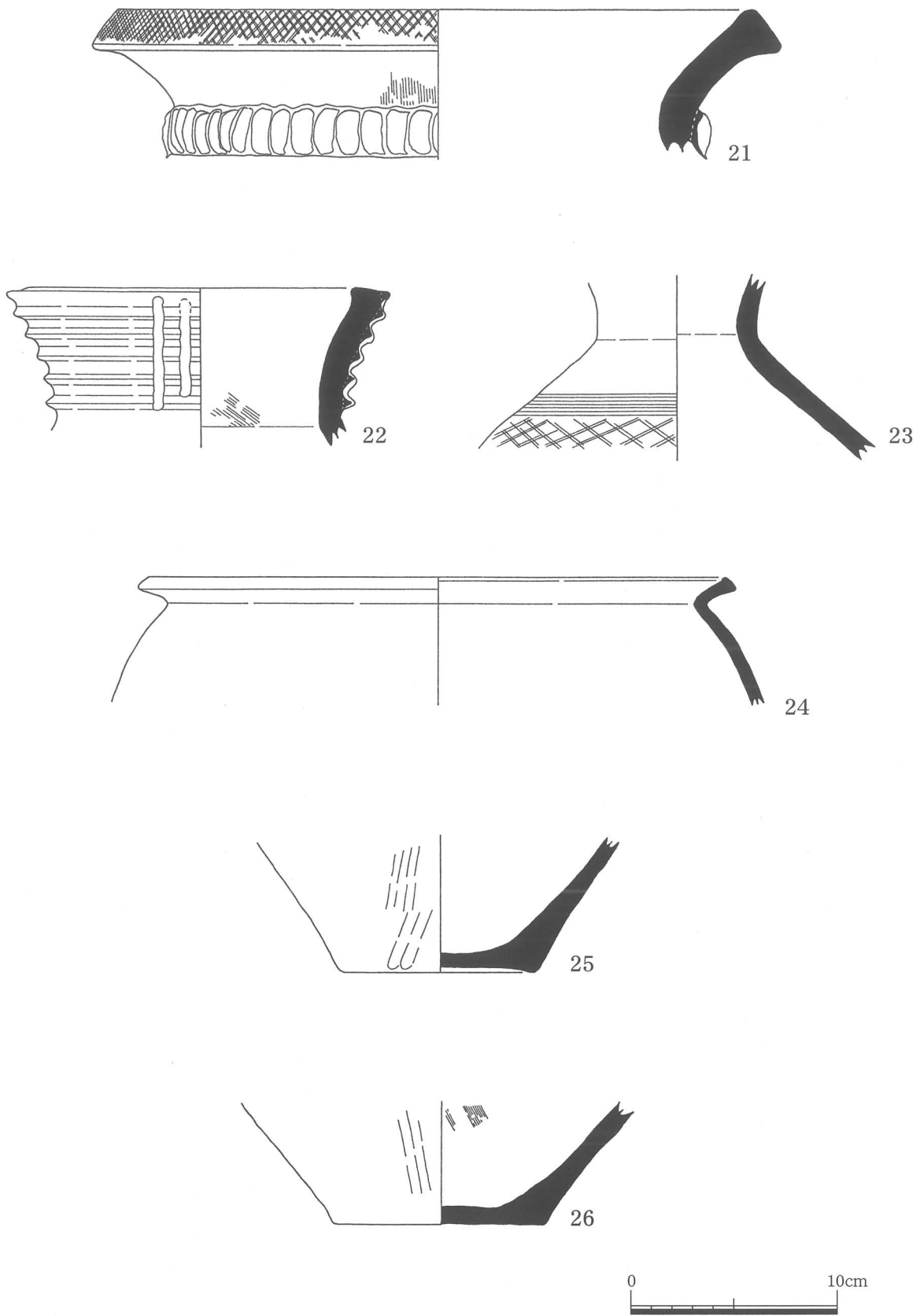
淡褐色土層



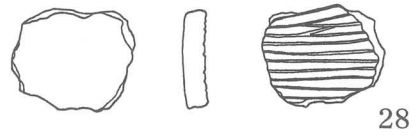
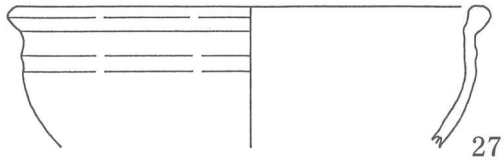
暗灰褐色土層

第1トレンチ出土遺物(3)

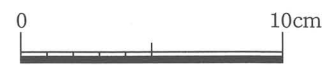
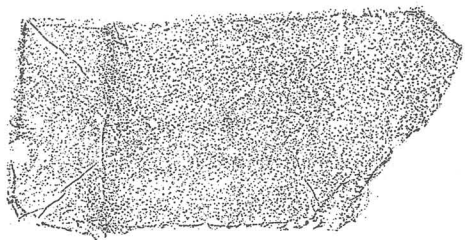
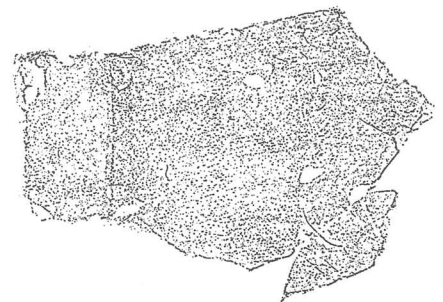
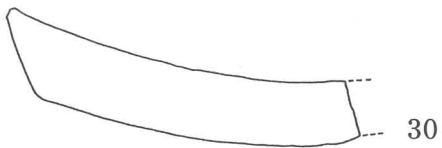
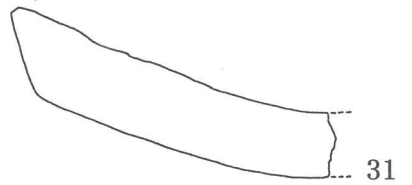
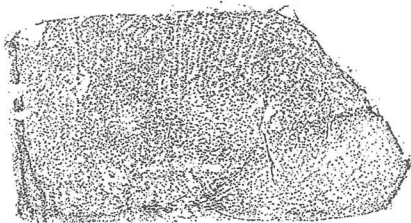
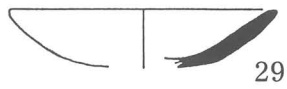
第9図 第8次調査出土遺物(3)



断ち割り(褐色砂質土層)  
 第1トレンチ出土遺物(4)  
 第10図 第8次調査出土遺物(4)



第2トレンチ溝2



第3トレンチ石組溝

第2・3トレンチ出土遺物

第11図 第8次調査出土遺物 (5)

表1 第8次調査出土遺物観察表(1)

番号	出土場所	種別/器種	法量(cm)	調整	色調	実測番号	備考
1	第1トレンチ 土塀北側溝	土師器・羽釜		外 磨耗のため不明 内 刷毛目	外 鈍い黄橙 10YR7/2 内 灰黄褐 10YR6/2	0102-1-6	外面煤付着
2	第1トレンチ 土塀北側溝	須恵器・坏	口径 15.6 器高 4.3 底径 11.6	外 回転ナデ 底部回転削り 内 回転ナデ 底部不定方向ナデ	灰白 7.5Y7/1	0102-1-5	
3	第1トレンチ 土塀北側溝	丸瓦	全長 21.6 幅 12.3	凸 縦方向篋磨き 凹 縄目・布目痕	オリーブ黒～灰 10Y3/1～10Y4/1	0102-1-1	燻し瓦
4	第1トレンチ 土塀北側溝	丸瓦	幅 13.0	凹 布目痕	青黒 10BG2/1	0102-1-2	釘穴 燻し瓦
5	第1トレンチ 土塀北側溝	丸瓦	全長 22.8 幅 13.4	凸 ナデ 凹 布目痕・ナデ	青黒～灰 10BG1.7/1～N5	0102-1-3	燻し瓦
6	第1トレンチ 土塀北側溝	平瓦	長さ 25.0 幅 24.0 厚さ 1.6	凹 ナデ 凸 ナデ	黒～灰 10Y2/1～10Y5/1	0102-1-24	燻し瓦
7	第1トレンチ 土塀北側溝	平瓦	長さ 26.7 厚さ 1.6	凹 ナデ 凸 ナデ	黒～灰 7.5Y2/1～7.5Y5/1	0102-1-4	燻し瓦
8	第1トレンチ 淡褐色土層	染付け磁器・碗	口径 9.4 器高 3.6 底径 3.8	施釉	灰白 7.5Y8/1 藍染付け	0102-1-17	
9	第1トレンチ 淡褐色土層	備前焼・大甕		ヨコナデ 内面胴部削り	外 灰赤 2.5YR4/2 内 暗赤～灰赤 2.5YR3/2～2.5YR4/2	0102-1-10	内面の一部にゴ マ釉
10	第1トレンチ 淡褐色土層	備前焼・大甕		ヨコナデ 内面胴部削り	外 赤灰～灰赤 2.5YR4/1～2.5YR5/2 内 灰赤 2.5YR4/2	0102-1-11	
11	第1トレンチ 淡褐色土層	備前焼・大甕		ヨコナデ	外 暗赤褐 5YR3/2 内 暗赤褐～黒褐 5YR3/2～5YR3/1	0102-1-12	内面にゴマ釉
12	第1トレンチ 淡褐色土層	備前焼・大甕		ヨコナデ	外 赤黒 10R2/1 内 赤褐 10R4/3	0102-1-13	外面にゴマ釉
13	第1トレンチ 淡褐色土層	備前焼・大甕		ヨコナデ	外 灰赤 10YR4/2 内 鈍い赤褐 5YR5/3	0102-1-26	窯印
14	第1トレンチ 淡褐色土層	備前焼・大甕		ヨコナデ	外 鈍い赤褐 5YR4/3 内 褐灰 5YR4/1	0102-1-25	窯印 外面にゴマ釉
15	第1トレンチ 淡褐色土層	石製品・砥石				0102-1-16	凝灰岩
16	第1トレンチ 淡褐色土層	金属製品・おはじき	直径 2.0	草花紋		0102-1-18	錫製?
17	第1トレンチ 暗灰褐色土層	須恵器・坏蓋	口径 14.6 器高 3.9	外 回転削り/ナデ 内 回転ナデ	灰 N5	0102-1-8	
18	第1トレンチ 暗灰褐色土層	須恵器・坏身	口径 13.0 器高 3.7	外 回転ナデ/削り 内 回転ナデ	灰 5Y6/1	0102-1-7	
19	第1トレンチ 暗灰褐色土層	須恵器・坏身	底径 9.5	回転ナデ	外 灰 N5～N6 内 灰 N6	0102-1-9	貼付け高台
20	第1トレンチ 暗灰褐色土層	布目瓦	厚さ 2.1	凹 布目、面取り 凸 荒い平行叩き	灰 N6	0102-1-23	
21	第1トレンチ 断ち割り (褐色砂質土)	弥生・壺	口径 30.8	外 縦方向ハケ目、口 縁端格子刻み目紋 頸部貼付け指頭圧 痕凸帯 内 ナデ	橙 7.5YR7/6	0102-1-20	
22	第1トレンチ 断ち割り (褐色砂質土)	弥生・壺	口径 15.2	外 貼付け凸帯、棒状 浮紋 内 ハケ目	外 浅黄橙 10YR8/4 内 鈍い黄橙 10YR7/3	0102-1-21	



表2 第8次調査出土遺物観察表(2)

番号	出土場所	種別/器種	法量(cm)	調整	色調	実測番号	備考
23	第1トレンチ 断ち割り (褐色砂質土)	弥生・壺		外 櫛描直線紋、格子 紋 内 磨耗のため不明	外 浅黄橙 10YR8/4 内 鈍黄橙 10YR7/3	0102-1-22	
24	第1トレンチ 断ち割り (褐色砂質土)	弥生・甕	口径 28.0	磨耗のため不明	外 浅黄橙 7.5YR8/4 内 鈍黄橙 10YR7/3	0102-1-20	
25	第1トレンチ 断ち割り (褐色砂質土)	弥生・底部	底径 9.4	外 ヘラ磨き、底面ナ デ 内 ナデ	外 橙 5TR7/8~7.5YR7/6 内 浅黄橙 10YR8/4	0102-1-14	
26	第1トレンチ 断ち割り (褐色砂質土)	弥生・底部	底径 10.2	外 ヘラ磨き 内 ハケ目	外 橙~鈍い橙 7.5YR7/6~7.5TR7/4 内 橙 5YR7/6	0102-1-15	
27	第2トレンチ 溝2	施釉陶器・鉢	口径 17.0	施釉	外 明黄褐 10YR7/6~6/6 内 明黄褐 10YR7/6	0102-2-1	行平?
28	第2トレンチ 溝2	土製品・面子	直径 3.9×4.8 厚さ 0.9		外 鈍い赤褐 5YR5/4 内 鈍い赤褐 5YR5/3	0102-2-2	播鉢転用
29	第3トレンチ 石組溝	土師器・皿	口径 10.2 器高 2.3	磨耗のため不明	鈍い黄橙 10YR7/3	0102-3-3	
30	第3トレンチ 石組溝	平瓦	厚さ 2.8	凹 布目、面取り 凸 ナデ	黒 10TR2/1	0102-3-2	
31	第3トレンチ 石組溝	平瓦	厚さ 2.8	凹 削り、面取り 凸 ナデ	鈍い黄橙~橙 10YR6/3~7.5YR6/6	0102-3-1	被熱

## 【第9次調査(平成14年度)】

第9次調査では、前回の調査の第3トレンチで検出された東西築地塀の西方への延びと、西側南北築地塀の確認を目的に、境内西部で前回の調査の第3トレンチの西に隣接してL字型に1カ所(第1トレンチ)、聖徳殿の南西部に1カ所(第2トレンチ)、第2トレンチの南西約9mで、南側土塀に接して1カ所(第3トレンチ)の計3カ所を設定して調査を実施した。

調査区の基本土層は、前回の調査とほぼ同様な堆積状況を示している。なお、旧表土下の整地層は非常に硬く締まったもので、土層中からはガラス片・薄手の棧瓦・十円硬貨等が出土しており、明治時代から昭和30年代以降にかけてのものである事がわかる。また、前回の調査では不明であった、築地塀南北両側溝の規模が判明した。

### 第1トレンチ

東西築地塀基底部とその南北両側溝(溝1・2)、柱穴、南側溝に並走する小溝(溝3)が検出された。また、東西トレンチ部分で、東端部から約4mの地点で南側溝に直交する南北方向の段差が認められ、西側が約3cm高くなっている。灰褐色土層から白磁・小柄の柄が出土した。

#### 東西築地塀

東西築地塀は、前回の調査で検出されたものの西側の続きで、検出面での幅は、両側溝の上端間で約2.0mを測る。

#### 溝1

築地塀南側溝で、幅約1.1m、深さ約18cmを測り、断面形は逆台形を呈する。土師器・緑釉陶器・陶磁器・備前焼・瓦が出土した。

#### 溝2

築地塀北側溝で、上面に現代の攪乱が存在するため規模は不確かであるが、現状で幅約90cm、深さ約48cmを測り、断面形は逆台形を呈する。南側溝に比べ2倍以上深い。土師器・陶磁器・備前焼・瓦が出土した。

#### 溝3

溝1の南側に並走する形で検出され、トレンチ東端から約3mの所で途切れる。幅約30cm、深さ10～15cmを測る。

#### 柱穴1

トレンチ東端で検出され、内部には根石状に角礫が存在する。径約30cm、深さ約20cmを測る。

### 第2トレンチ

このトレンチは現代の削平及び攪乱が著しいが、南北溝、土坑、柱穴が検出された。柱穴には建物としてまとまるものは認められない。

#### 南北溝

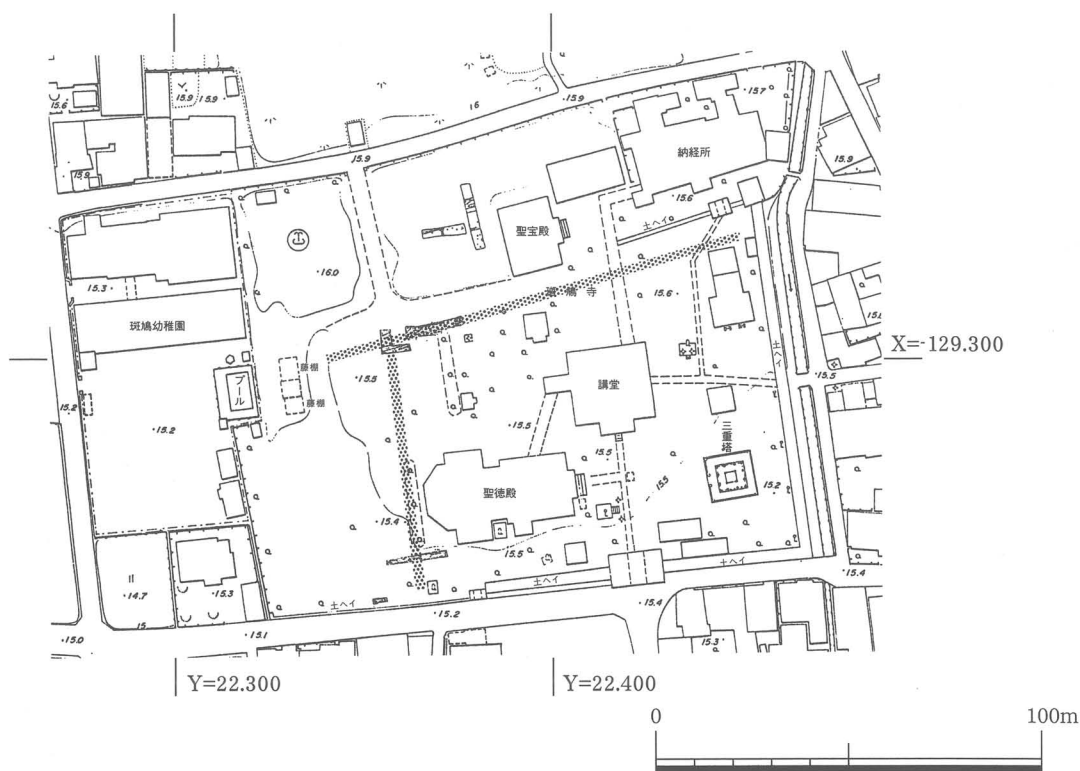
トレンチ東端から約6mの地点で検出された。深さ約20cmを測るが、幅は西側が地下埋設管による攪乱のため不明である。土師器灯明皿の細片が少量出土しただけである。

#### 土坑

トレンチ西端で2基検出され、深さはいずれも約30cmを測る。全体形は調査区外へ延びるため不明である。

### 第3トレンチ

このトレンチは、以前に公衆便所が設置されていた所のため、その攪乱が著しい。遺構は検出されなかったが、東端部で地山面の落ち込みが検出された。



第12図 築地塀復元図

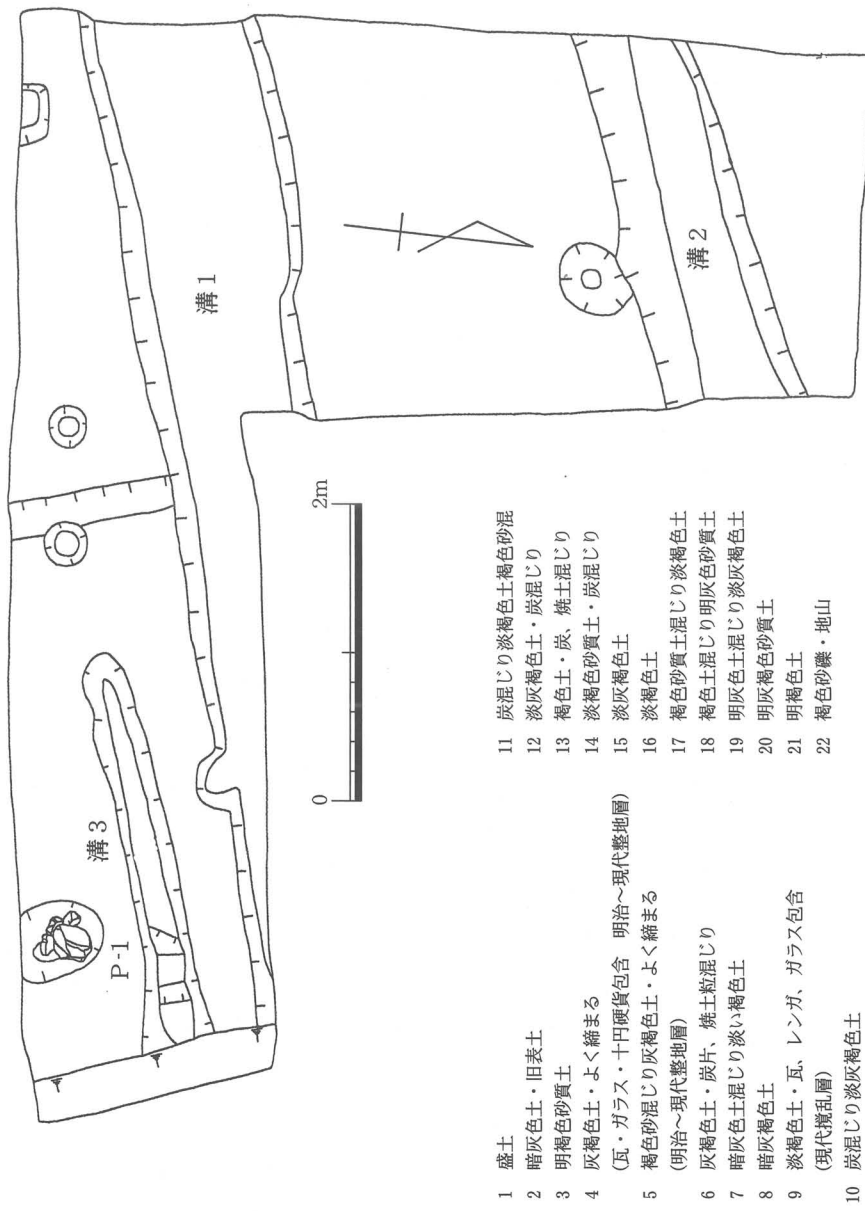
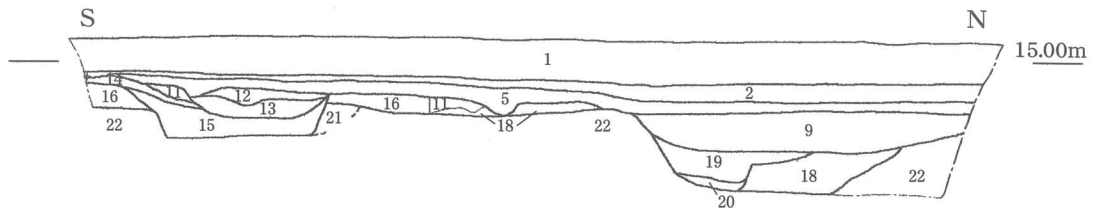
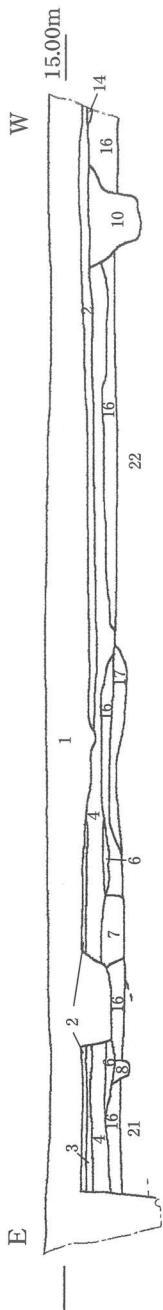
## 9. まとめ

2カ年にわたる調査の結果、調査地は明治以降の削平及び、現代の公園整備に伴う整地等の攪乱を受けており、遺構の遺存状況は良くないものであったが、平成13年度の第8次調査では、第1トレンチからは東西方向の土塀の基礎、第2トレンチからは石列を伴う南北方向の溝、第3トレンチからは東西方向の築地塀基壇と石組溝等の遺構がそれぞれ検出された。

第3トレンチで検出された築地塀基壇は、地山を削り出したもので、平成6年度に実施した第6次調査で検出された参道西側築地塀基壇と共通するものがあり、位置的にも斑鳩寺北側を画する築地塀の痕跡と考えられる。また、第1及び第2トレンチで検出された土塀基礎と溝に関しては、位置的に子院である圓光院あるいは双樹院に伴う遺構の一部と考えられ、石組溝に関しても、子院に付属した排水施設の一部と考えられる。

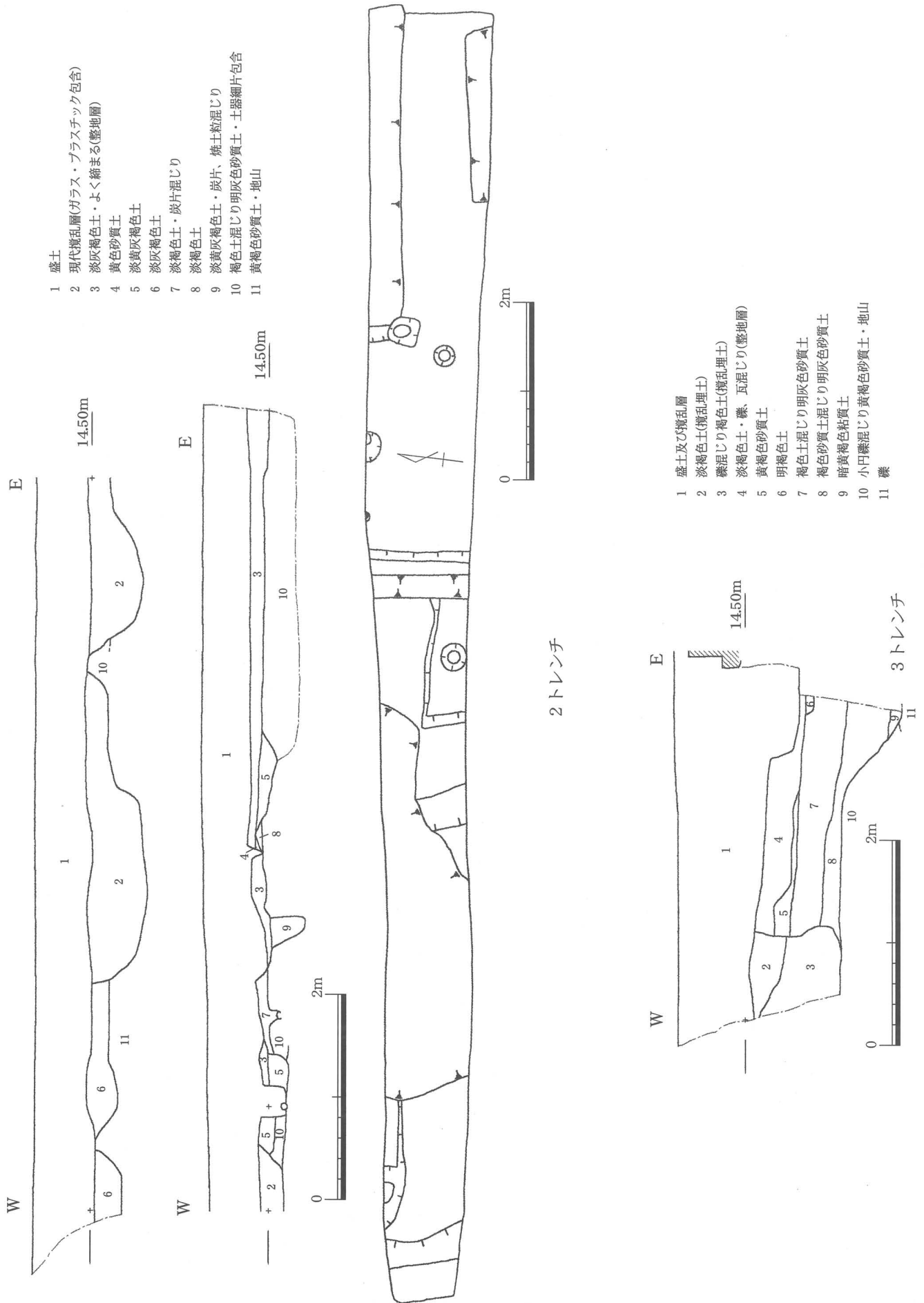
平成14年度の第9次調査では、前年度の調査区から続く東西築地塀基底部を検出する事が出来た。南北築地塀に関しては、明治時代以降の削平及び現代の攪乱が著しく判然としないが、第1トレンチで検出された南北方向の段差及び、第2トレンチで検出された南北溝が、斑鳩寺東土塀内側からそれぞれ約98mを測る位置にあることから、西側南北築地塀の痕跡であると考えられる。

今回の一連の調査で、現在境内西部は公園として整備されているため、子院ないしは塔頭寺院跡地と一体となってしまっている斑鳩寺の、本来の境内規模を復元する手がかりが得られるとともに、今後の保存整備に対しても貴重な資料を得る事が出来た。



- |    |                                       |    |              |
|----|---------------------------------------|----|--------------|
| 1  | 盛土                                    | 11 | 炭混じり淡褐色土褐色砂混 |
| 2  | 暗灰色土・旧表土                              | 12 | 淡灰褐色土・炭混じり   |
| 3  | 明褐色砂質土                                | 13 | 褐色土・炭、焼土混じり  |
| 4  | 灰褐色土・よく締まる<br>(瓦・ガラス・十円硬貨包含 明治～現代整地層) | 14 | 淡褐色砂質土・炭混じり  |
| 5  | 褐色砂混じり灰褐色土・よく締まる<br>(明治～現代整地層)        | 15 | 淡灰褐色土        |
| 6  | 灰褐色土・炭片、焼土粒混じり                        | 16 | 淡褐色土         |
| 7  | 暗灰色土混じり淡い褐色土                          | 17 | 褐色砂質土混じり淡褐色土 |
| 8  | 暗灰褐色土                                 | 18 | 褐色土混じり明灰色砂質土 |
| 9  | 淡褐色土・瓦、レンガ、ガラス包含<br>(現代糖乱層)           | 19 | 明灰色土混じり淡灰褐色土 |
| 10 | 炭混じり淡灰褐色土                             | 20 | 明灰褐色砂質土      |
|    |                                       | 21 | 明褐色土         |
|    |                                       | 22 | 褐色砂礫・地山      |

第13図 第1トレンチ実測図

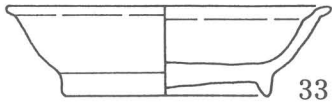


第14図 第2・3トレンチ実測図

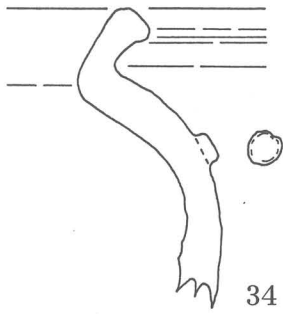


32

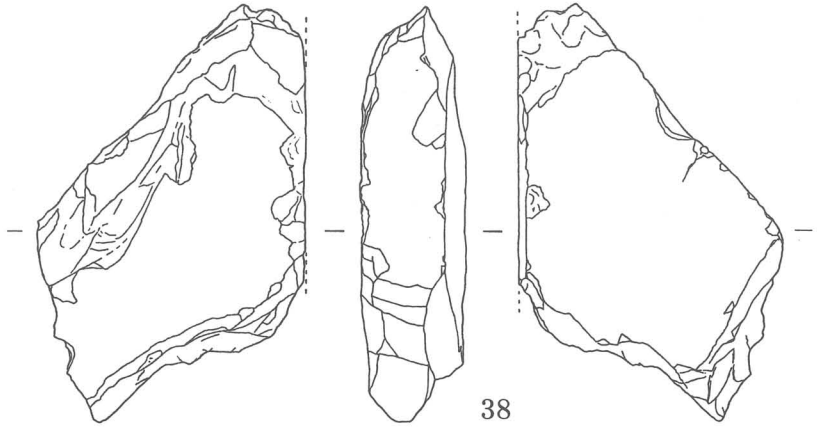
第1トレンチ溝1



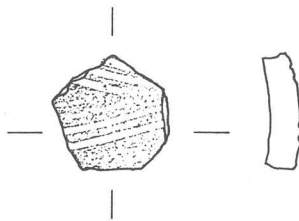
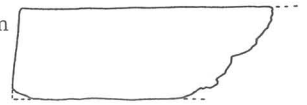
33



34

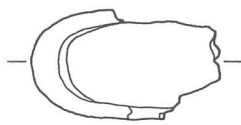


38



35

第2トレンチ淡灰褐色土

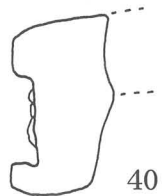


39



36

第1トレンチ淡褐色土

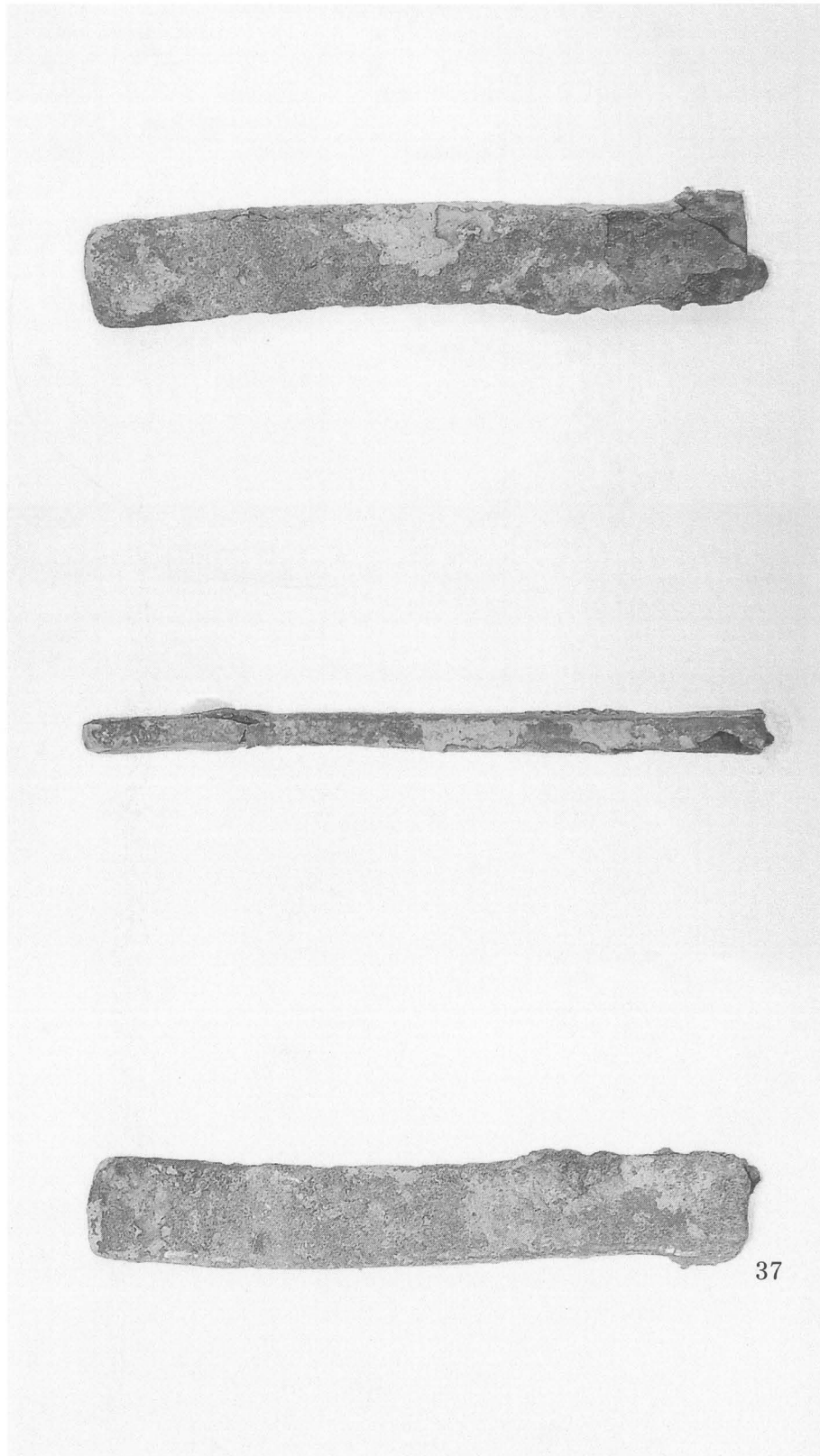


40



第2トレンチ攪乱

第15図 第9次調査出土遺物



第16図 第1トレンチ出土「小柄」

表3 第9次調査出土遺物観察表

番号	出土場所	種別 / 器種	法量 (cm)	調整	色調	実測番号	備考
32	第1トレンチ 溝1	緑釉磁器・碗	底径 5.8	回転ナデ、施釉	灰白 10Y7/1 釉 オリーブ灰 10Y6/2	0205-1-5	貼付け高台
33	第1トレンチ 淡褐色土層	白磁・小坏	口径 8.6 器高 2.4 底径 5.2	高台端部露胎	灰白 N8	0205-1-1	
34	第1トレンチ 淡褐色土層	備前焼・壺		回転ナデ 外面胴部ゴマ釉	外 暗青灰 5PB4/1 内 暗青灰～暗紫灰 5PB4/1～5RP4/1	0205-1-3	
35	第1トレンチ 淡褐色土層	土製品・面子	直径 3.0×3.2 厚さ 0.8	外 ゴマ釉 内 回転ナデ	褐灰 7.5YR4/1	0205-1-2	備前焼転用 窯印
36	第1トレンチ 淡褐色土層	石製品・硯	幅 2.9 厚さ 1.1		褐灰 10YR6/1	0205-1-4	
37	第1トレンチ 淡褐色土層	金属製品・小柄	長さ 8.4 幅 1.3 厚さ 0.5			0205-1-6	茎が残る
38	第2トレンチ 淡灰褐色土層	磚瓦	厚さ 4.8	ナデ	灰白～灰～鈍い褐 N7～N6～7.5YR6/3	0205-2-1	
39	第2トレンチ 攪乱	軒平瓦			灰～灰白 N4～2.5Y7	0205-2-2	
40	第2トレンチ 攪乱	軒平瓦			灰 N4	0205-2-3	



図版 1  
第8次調査



第1トレンチ (北から)



第1トレンチ (南から)



第1トレンチ土堀 (西から)



第 2 トレンチ (東から)



第 2 トレンチ溝 2 (北から)



第 2 トレンチ西壁断面

図版 3  
第8次調査



第3トレンチ (西から)



第3トレンチ石組溝 (南から)



石組溝 転用五輪塔「火輪」





調査風景「トライやる・ウィーク」



第1トレンチ（南西から）



第1トレンチ（東から）

図版 5  
第9次調査



第1トレンチP-1（北から）



第1トレンチ西壁断面



第1トレンチ南壁断面



第2トレンチ (東南から)



第2トレンチ北壁断面



第3トレンチ (南西から)



報告書抄録

ふりがな	ほうりゅうじりょうはりまのくにいかるがのしょういせきぐんちょうさほうこく							
書名	法隆寺領播磨国鵜荘遺跡群調査報告 I							
副書名	斑鳩寺遺跡 第8・9次調査							
巻次								
シリーズ名	太子町文化財資料							
シリーズ番号	第68集							
編著者名	海野浩幸							
編集機関	太子町教育委員会							
所在地	〒671-1561 揖保郡太子町鵜 1369-1 TEL.0792-77-1017							
発行年月日	西暦 2003年3月31日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号				( m <sup>2</sup> )	
いかるがでら 斑鳩寺 遺跡	いほぐん 揖保郡 たいしちょう 太子町 いかるががさ 鵜字 斑鳩寺 709番地	284645	450010	34度 50分 02秒	134度 34分 39秒	第8次調査 2002.3.1 ～ 2002.3.31  第9次調査 2002.11.7 ～ 2002.11.28	115    53.5	国庫補助 事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
斑鳩寺遺跡	寺院	中世 江戸時代	築地塀基壇 石組み暗渠 石列 土坑 溝	弥生式土器・土師器 須恵器・陶磁器(緑釉 陶器・白磁)・備前焼 瓦 金属製品(小柄)	斑鳩寺北面の築 地の一部を確認。			

松尾寺跡遺跡／斑鳩寺遺跡

発行 2003(平成15)年3月  
太子町教育委員会

印刷 サガヤマ印刷株式会社  
TEL(0792)77-0425(代) FAX(0792)77-0426



